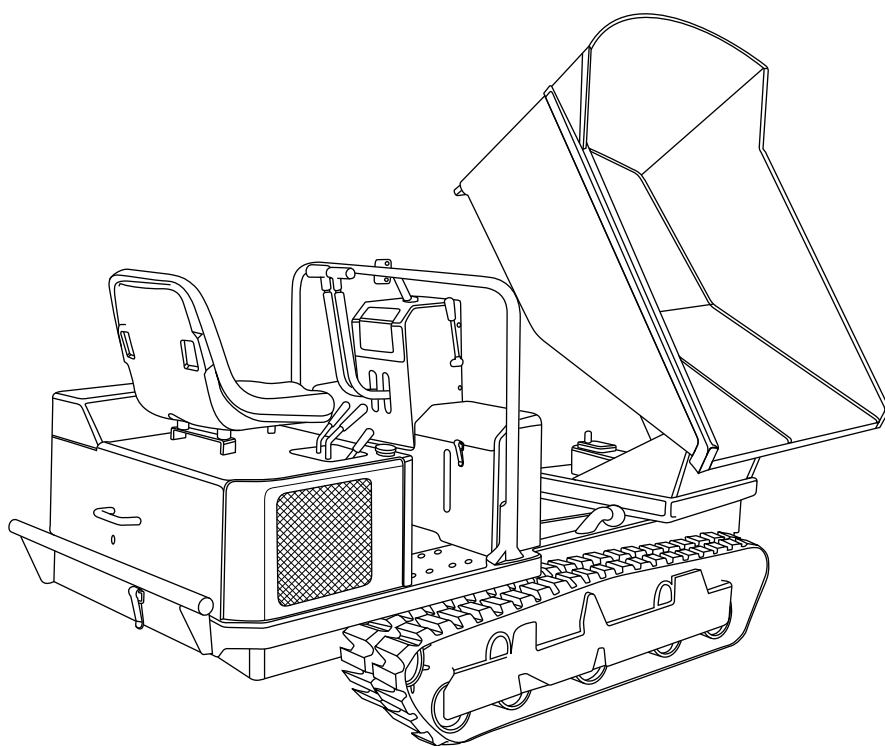


不整地運搬車 S 1 0 0

取扱説明書



⚠ 警 告

- ・ 本書を読んで理解するまでは、本製品の運転および保守・点検を行わないでください。
- ・ 本書は、本製品の運転または保守・点検を行う場合、いつでも参照できるように大切に保管してください。

3677 5105 002

株式会社 筑水キャニコム

〒839-1396 福岡県うきは市吉井町福益90-1
TEL (0943) 75-2195 (代) FAX (0943) 75-4396

株式会社 筑水キャニコム

<http://www.canycom.co.jp/>

■ 本社営業本部	TEL 0943 (75) 2195	FAX (75) 4396	■ 埼玉センター	TEL 0495 (77) 4511	FAX (77) 1561
■ 海外センター	TEL 03 (3552) 6277	FAX (3552) 6288	■ 大阪センター	TEL 0790 (42) 6031	FAX (42) 6035
■ 東京センター	TEL 03 (3552) 6255	FAX (3552) 6288	■ 広島センター	TEL 0824 (34) 5996	FAX (34) 5997
■ 仙台センター	TEL 022 (281) 1255	FAX (281) 3141	■ 福岡センター	TEL 0943 (76) 2583	FAX (75) 5126

連絡先控え（販売店名）

本書の警告について

本書では、危険度の高さ（または事故の大きさ）にしたがって、警告用語を次の４段階に分類しています。以下の警告用語がもつ意味を理解し、本書の内容（指示）にしたがってください。

警 告 用 語	意 味
 危 険	差し迫った危険な状態を示し、手順や指示に従わないと、死亡もしくは重傷を負う場合に使用されます。
 警 告	潜在する危険な状態を示し、手順や指示に従わないと、死亡もしくは重傷を負う可能性のある場合に使用されます。
 注 意	潜在する危険な状態を示し、手順や指示に従わないと、中・軽傷を負う場合に使用されます。また、本製品に物的損害が発生する場合にも使用されます。
注 記	特に注意を促したり、強調したい情報について使用されます。

ユーザーの皆様へ

このたびは、本製品をお買い上げいただき、まことにありがとうございます。
ご使用になる前に、本書をお読みいただき、正しい取り扱いをしてください。

警 告

本製品には、潜在する危険があることを知らなければなりません。
したがって、本製品の運転および保守・点検を行う場合は、必ず
本書に従ってください。

警 告

本製品は、公道および公道とみなされる道路での運転はできません。
当該道路上での運転による事故および違反につきましては、
責任を負いかねます。

警 告

本製品を改造して使用しないでください。また、本体の安全カバー
等を取り外して運転しないでください。重大な事故の原因となります。

事業者の皆様へ

注 意

本製品は、労働安全衛生法施行令で定める不整地運搬車に該当します。本製品は最大積載量が1トン未満の運搬車ですが、運転には、特別教育の修了が必要です。また、不整地運搬車は日常点検、定期自主点検、特定自主点検が義務付けられています。なお、定期自主点検記録は3年間保存してください。

リース（レンタル）業者の皆様へ

注 意

本製品を他の事業者または個人に貸す際には、取り扱い方法を明確に説明し、使用前に本書を必ず読むように指導してください。

目 次

1.	はじめに	1
1.1	本書の目的について	1
1.2	本書の構成について	1
1.3	本製品に貼付してある警告ラベルについて	2
2.	保証とアフターサービスについて	4
3.	安全運転・作業のための心得	5
4.	各部の名称とはたらき	10
5.	製品仕様	12
5.1	本製品の仕様	12
5.2	付属品明細	13
6.	運転と操作	14
6.1	始動前の準備	14
6.1.1	燃料の給油	14
6.1.2	エンジンオイル量の点検と補給	15
6.1.3	エンジン冷却水量の点検と補給	15
6.2	始動のしかた	16
6.2.1	始動の準備	16
6.2.2	通常の始動	17
6.2.3	寒冷時の始動	20

6.3	運転のしかた	21
6.4	停止のしかた	23
6.5	ダンプ操作	25
6.6	ターン操作	27

7. 保守（お手入れ） 28

7.1	定期点検表	28
7.2	給油・給脂・注油・給水一覧表	32
7.3	消耗部品（交換部品）一覧表	33
7.4	給油	34
7.4.1	エンジンオイル	34
7.4.2	トランスミッションオイル	35
7.4.3	HST オイル	36
7.5	給脂・注油	37
7.6	給水	38
7.6.1	エンジン冷却水	38
7.6.2	バッテリー液	39
7.7	清掃・交換	41
7.7.1	エアクリーナ	41
7.7.2	エンジンオイルフィルタカートリッジ	42
7.7.3	サクシヨンフィルタとラインフィルタ	43
7.7.4	フューエルフィルタ	43
7.8	調整	44
7.8.1	燃料系統のエア抜き	44
7.8.2	駐車ブレーキ	44
7.8.3	走行 V ベルト	45
7.8.4	油圧 V ベルト	45
7.8.5	冷却ファンベルトの張り	46

7.8.6	クローラの張り	46
7.8.7	操向レバー	47
7.9	電装品	49
7.9.1	ヒューズ	49
7.10	使用後のお手入れ	50

8. 格納（長期保管） 51

8.1	車両	51
8.1.1	クローラ	51
8.1.2	クラッチ	51
8.2	バッテリー	52
8.3	エンジン	52
8.3.1	エアクリーナエレメントの清掃	52
8.3.2	エンジンオイルの交換	53
8.3.3	フューエルコック	53

9. 不具合発生時の処置 54

10. 本製品の移送 57

10.1	自動車（トラック）への積み降ろし	57
10.2	クレーン等による吊り上げ要領	58

<保証書>

本書の巻末に添付

※ 本製品の取扱説明を受けた後に、受領証と共にお受け取りください。

<付 録>

「エンジン取扱説明書」

※ 本書と併せて必ずお読みください。

はじめに

1. はじめに

1.1 本書の目的について

本書の目的は、本製品について、正しい運転操作および保守・点検方法を知っていただくために詳しい情報を提供することです。

また、本書は、はじめて本製品を使用される方を対象として作成しています。

1.2 本書の構成について

本書では、以下の章に分けて情報を記載しています。

1. はじめに

この章では、本書の目的、構成について説明しています。
また、本製品に貼付してある警告ラベルについても記載しています。

2. 保証とアフターサービスについて

この章では、本製品の保証およびアフターサービスに関する事項を記載しています。

3. 安全運転・作業のための心得

この章では、運転時または作業時に必ず守っていただきたい一般安全事項を記載しています。

4. 各部の名称とはたらき

この章では、各部の名称とはたらきについて説明しています。

5. 製品仕様

この章では、本製品の仕様について記載しています。また、付属品の明細についても記載しています。

6. 運転と操作

この章では、運転前の準備、運転手順および操作方法について説明しています。

7. 保守（お手入れ）

この章では、定期点検、給油、給脂、注油、給水、清掃、調整および使用後のお手入れに関する情報を記載しています。

8. 格納（長期保管）

この章では、格納（長期保管）に関する情報を記載しています。

9. 不具合発生時の処置

この章では、不具合が発生した場合の処置について記載しています。

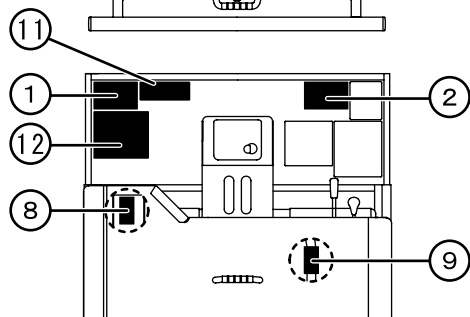
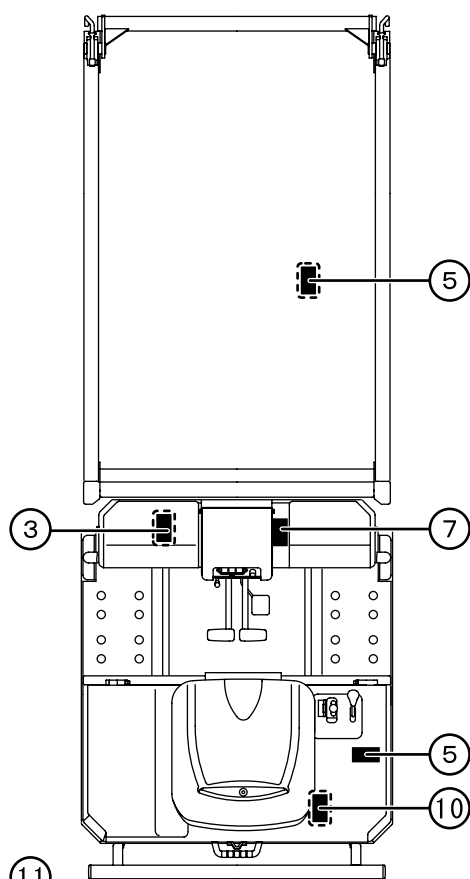
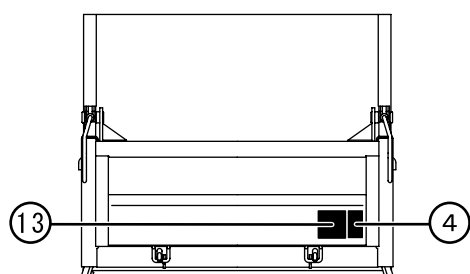
10. 本製品の移送

この章では、本製品を移送する場合の方法と注意事項について説明しています。

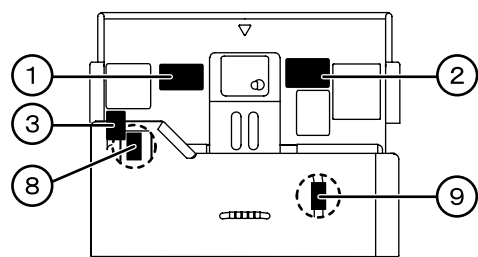
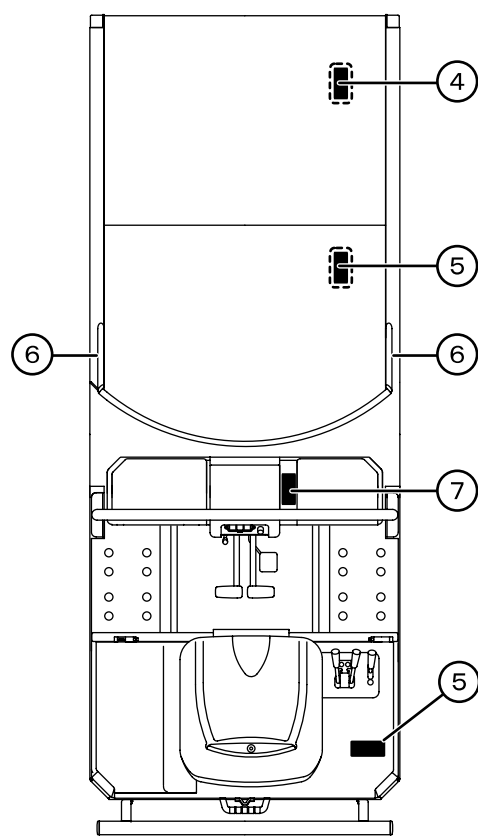
はじめに

1.3 本製品に貼付してある警告ラベルについて

本製品には下記の警告ラベルが貼付してあります。はがれたり見えにくくなったりした場合には、ラベル下の部品番号にて販売店へ注文し、新たに貼付してください。



ダンプ仕様



ターン&ダンプ仕様

はじめに

① 52295004000



② 52295007000



③ 52295022000



④ 52295018000



⑤ 52295017000



⑥ 36705011000



⑦ 52295024000



⑧ 52295021000



⑨ 52295025000



⑩ 36755011000



⑪ 36675033000

▲ 注 意		
バッテリー端子へのブースターケーブル接続は確実に行ってください。不完全な場合には、エンジン始動困難、接続不良によるスパーク発生の原因となり引火爆発の危険性があります。	バッテリー端子へのブースターケーブル接続はⒶとⒷの極性に注意してください。極性を逆にしますと車体の電気系統に損傷を与えます。	ブースターケーブル接続の際はケーブルのワニグリップが、車体に触れたり他のワニグリップと接触しないように行ってください。

⑫ 52295012000

▲ 警告	▲ 警告	▲ 警告
締め切った屋内ではエンジンを始動しないでください。排気ガスでガス中毒をおこすおそれがあります。	積み荷が片寄ると、車体が転倒するおそれがありますので必ず積み荷は均等に載せてください。	本機の積み降ろしは水平・堅土上でアユミ板を使い空車・低速でゆっくり行ってください。車両は前進で上り、後進で下ってください。重心が急に移動する事があるので慎重に行ってください。アユミ板上での方向変換は転落のおそれがあるので行なわないでください。
▲ 警 告		
● 荷台を上げて点検する時は、荷台の間に挟まれるおそれがありますので、ダンプリングを伸ばしきり、エンジンを停止後、ダンブレバーをロックし、荷台落下防止棒にて荷台を確実に支えます。 ● ダンブレバーを操作するときはできるだけ水平・堅土上で行なってください。傾斜地や凸凹地では、重心が移動し転倒するおそれがあります。 ● ダンブレバーを動かす時は、荷台の周囲に人がいないことを確認してください。 ● ダンブレバーを下げ操作する時は、荷台下にある落下防止棒を外してください。落下防止棒を外さないで操作するとフレームや落下防止棒を破損するおそれがあります。 ● 荷台を上げたまま走行しないでください。視界が悪いばかりでなく、重心が高くなり転倒するおそれがあります。 ● 荷台を上げたまま放置しないでください。誤って他人がダンブレバーに触れると、荷台が下がり事故を引き起こすおそれがあります。		

⑬ 36546071000



保証とアフターサービスについて

2. 保証とアフターサービスについて

保証について

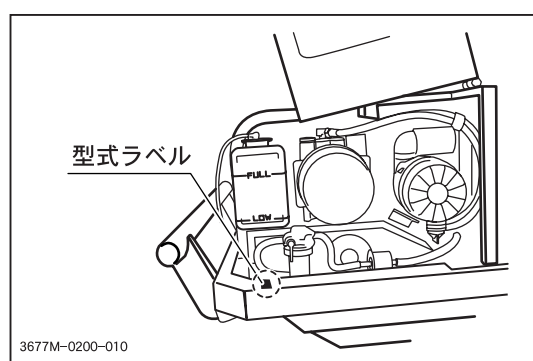
当社は本製品について、保証書の内容に基づいて保証をいたします。詳しくは本書巻末に添付の保証書を参照してください。

アフターサービスについて

ご使用中の不具合、ご不審な点およびサービスに関するご用命は、お買い上げいただいた販売店または当社センターにお気軽にご相談ください。その際、型式ラベルに記載の商品型式、製造番号および搭載エンジンのメーカー名、型式名を併せてご連絡ください。

(搭載エンジンのメーカー名および型式名については、本書の「5. 製品仕様」を参照してください。☞ 12 ページ)

<型式ラベル位置>



<型式ラベル>



補修用部品の供給年限（期間）について

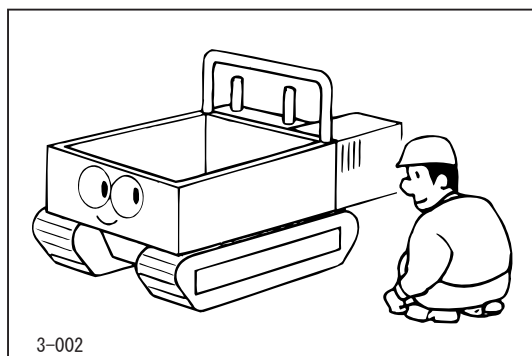
本製品の補修用部品の供給年限（期間）は、製造打ち切り後7年とします。

安全運転・作業のための心得

3. 安全運転・作業のための心得

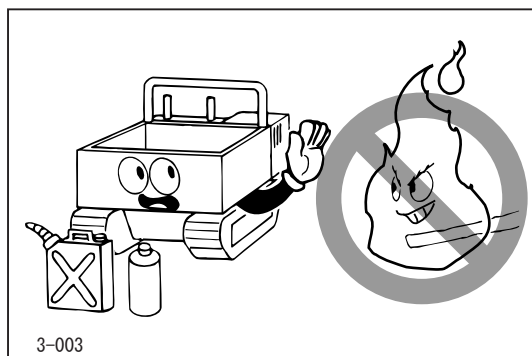
この章では、運転時または作業時に必ず守っていただきたい一般安全事項を記載しています。
本章以外で記載している各章の安全事項についても必ず従い、安全運転、安全作業を心掛けてください。

運転前の心得



始業点検の励行

運転の前に始業点検を必ず励行し、異常箇所は直ちに補修してください。



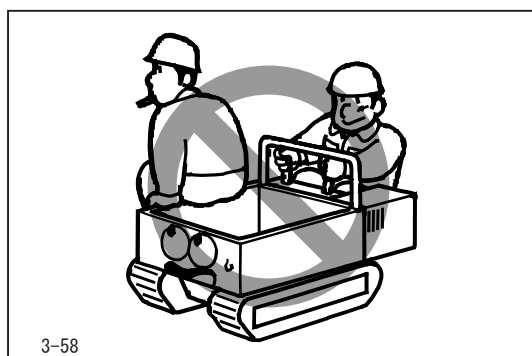
火気厳禁

燃料、油脂を取り扱う時は、絶対に火気（タバコの火など）を近づけないでください。また、バッテリーの充電中やエンジンの整備時にも火気には十分注意して作業をしてください。



正しい服装の励行

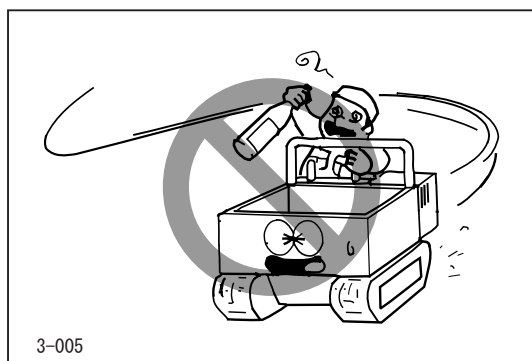
運転および作業にふさわしい服装を心掛け、軽装やサンダル履き等で運転や作業をしないでください。



同乗禁止

本製品は一人乗りです。同乗者を伴う運転は、重心の移動等が起こり大変危険です。運転者以外は絶対に乗せないでください。

安全運転・作業のための心得

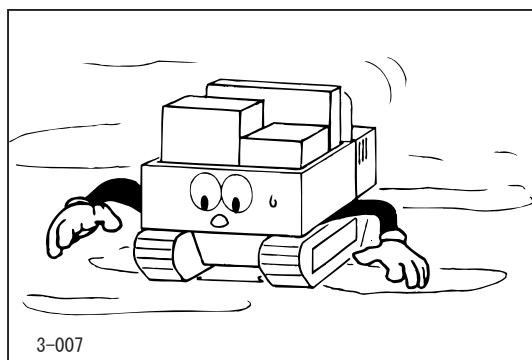


無謀運転禁止

飲酒をして運転したり、体調不良時に無理に運転をすると大変危険です。絶対におやめください。

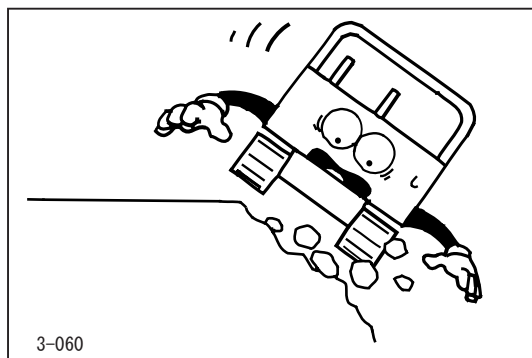
また、本製品の運転に適さない若年者の運転も絶対におやめください。

走行時の心得



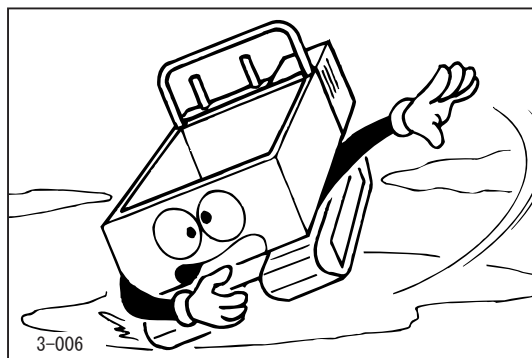
安全速度遵守

走行時は、走行路の勾配、路面の状態および積載量に応じた安全速度で走行してください。



路肩の崩れに注意

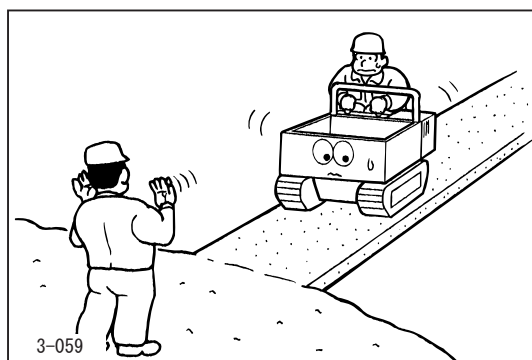
溝や土手の端を走行すると、車両の重みで路肩が崩れるおそれがあり危険です。特に軟弱な路肩付近では速度を落とし、慎重に走行してください。



急発進、急加速、急旋回、急ブレーキの禁止

急発進、急加速、急旋回および急ブレーキは避け、安全運転を心掛けてください。発進の前には必ず周囲の安全を確認し、軟弱な地盤やぬれた路面での急旋回および急停車はスリップや転倒を招くおそれがあり危険ですので、絶対にしないでください。

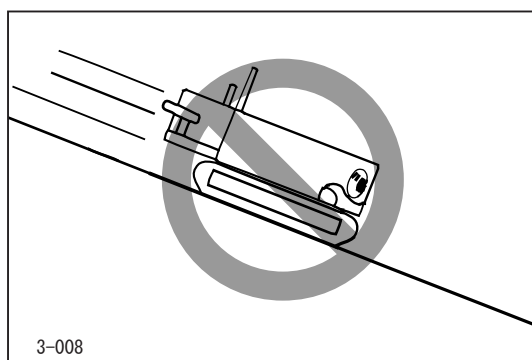
安全運転・作業のための心得



危険な場所では誘導者の指示に従う

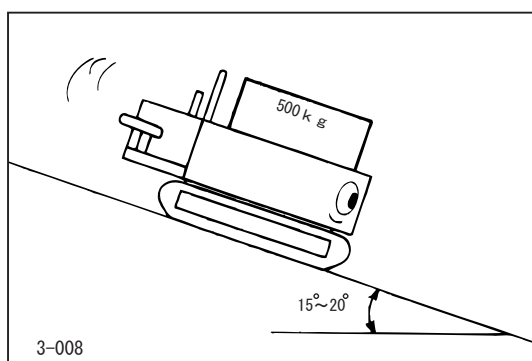
見通しの悪い場所や幅員の狭い道、傾斜や起状の激しい道では誘導者の指示に従い、安全確認を十分行ってから走行してください。

傾斜地の心得



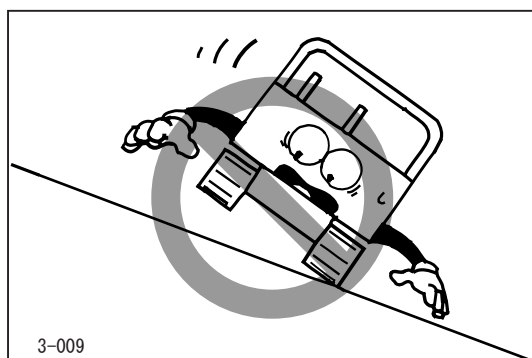
下り坂では低速で走行する

下り坂の前では一旦停止し、エンジン回転を下げて、低速で下ってください。



傾斜での積載量に注意

15° ~ 20° の傾斜では積載量を 500kg 以下にして走行してください。20° を超える急傾斜では、本製品をなるべく使用しないでください。やむを得ず使用する場合は、空車状態で運転してください。



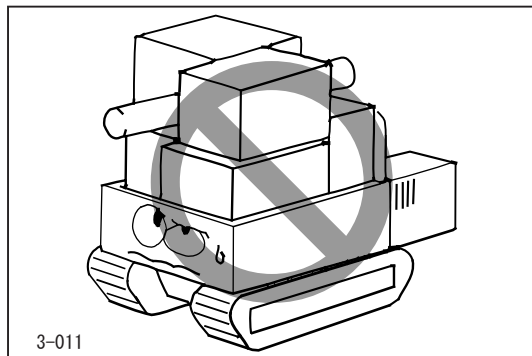
斜面での旋回・横断禁止

傾斜地を斜めに走行したり、等高線に沿って走行すると、転倒のおそれがあり大変危険です。傾斜に沿ってまっすぐ走行してください。

傾斜地での旋回操作は絶対に行わないでください。進路変更が必要な場合は、一度平坦な場所へ移動してから迂回するようにしてください。

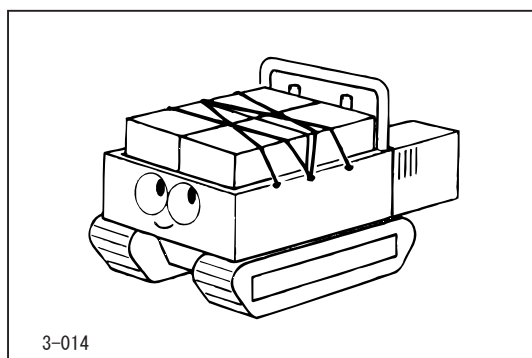
安全運転・作業のための心得

積載時の心得



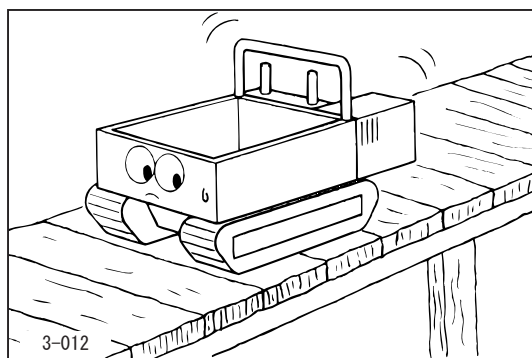
⚠ 過剰積載禁止

本製品の仕様で規定されている最大作業能力を超える積載はしないでください。



⚠ 積み荷は正しく載せる

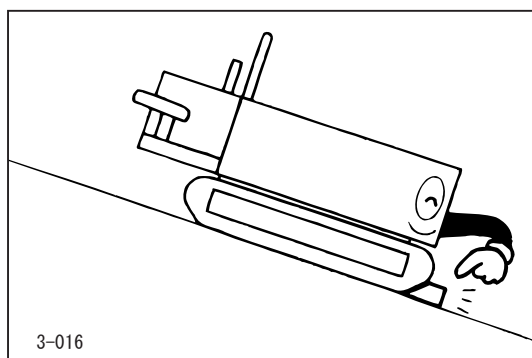
積み荷は偏荷重にならないよう、荷台に均一に載せ、ロープで固定するように心掛けてください。また、積み荷の高さに注意し、視界を確保するよう注意してください。



⚠ 制限重量に注意

木橋等を渡るときは、本製品の機械重量と積載量の総重量が、木橋等の制限重量を超えないことを確認し、一定速度で慎重に通過してください。

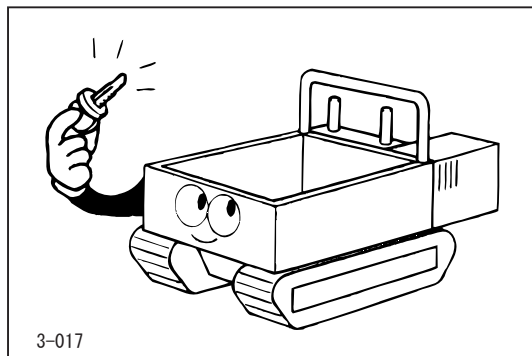
駐車時の心得



⚠ 坂道での輪止め励行

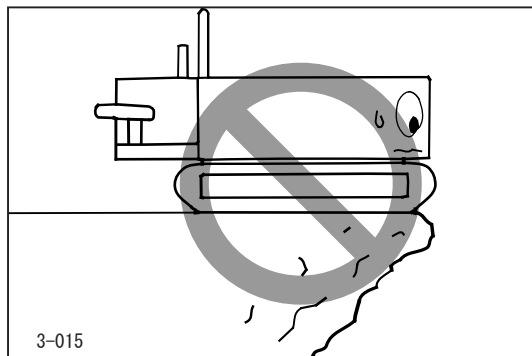
坂道での駐車は避けてください。やむなく坂道で駐車するときは、駐車ブレーキを確実にかけた後、輪止めをしてください。

安全運転・作業のための心得



⚠ 駐車時の安全確認

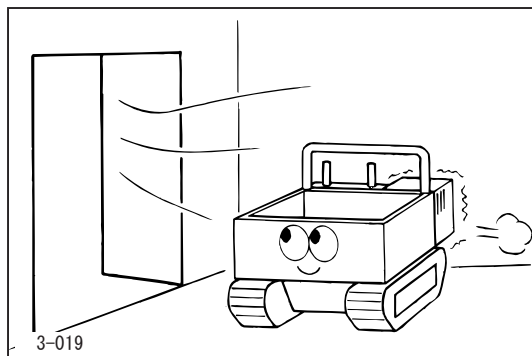
駐車時は、駐車ブレーキを必ずかけ、エンジン停止を励行してください。
また、キーを忘れずに抜いてください。



⚠ 危険な場所での駐停車禁止

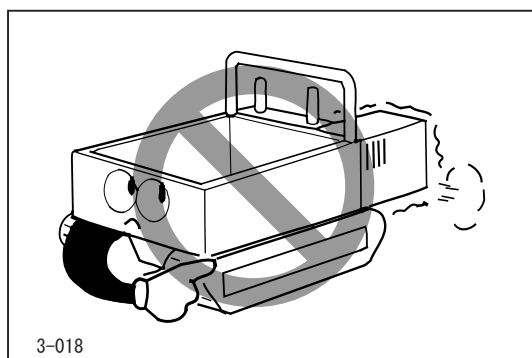
駐車の際は足場のよい平坦地に車体を止め、危険な場所での駐停車はしないでください。

整備時の心得



⚠ 換気に注意

室内でエンジンを運転させるときは、排気ガスによる中毒防止のため、換気をよくしてから作業を行ってください。

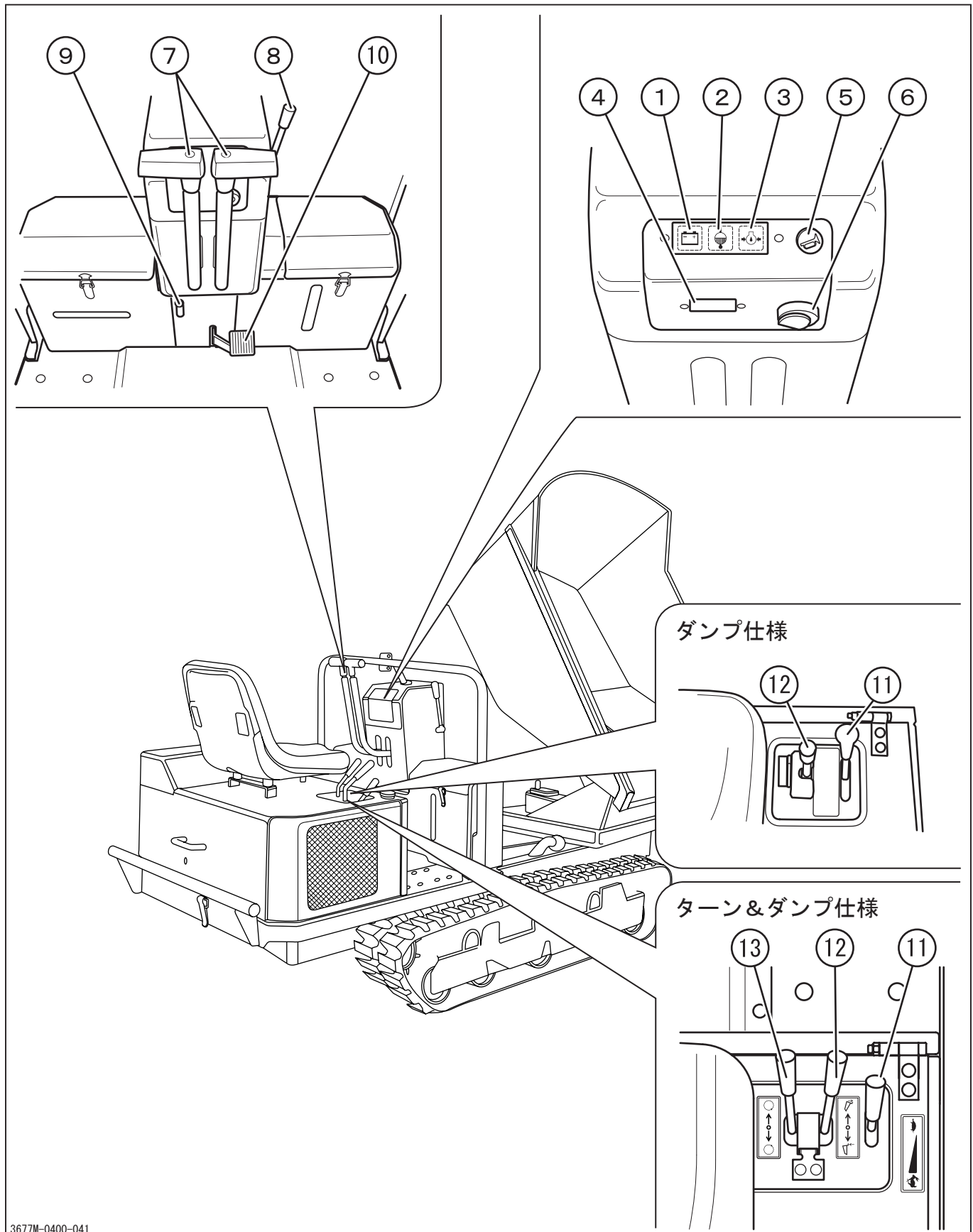


⚠ エンジン回転中の整備禁止

エンジン回転中は整備を行わないでください。
必ずエンジンを停止してから整備をしてください。

各部の名称とはたらき

4. 各部の名称とはたらき



3677M-0400-041

各部の名称とはたらき

各部の名称とはたらき

- ① チャージランプ …………… バッテリの充電状態を示します。
エンジン始動後、消灯していれば正常です。
- ② 冷却水温ランプ …………… エンジン冷却水温が異常に上昇(オーバーヒート)すると点灯します。
- ③ オイルランプ …………… エンジンオイルの圧力が正常かどうかを示します。
エンジン始動後、消灯していれば正常です。
- ④ アワメータ …………… 機械稼働時間の累計を 0.1 時間単位で示します。
- ⑤ ホーンスイッチ …………… スイッチを押すとホーンが鳴ります。
- ⑥ キースイッチ …………… エンジンを始動および停止させます。
- ⑦ 操向レバー …………… 車両の走行方向（前進または後進）の切り替えおよび車両を旋回させるときに使用します。
- ⑧ クラッチレバー …………… 寒冷時等エンジンの始動性が悪いときに使用します。
- ⑨ 駐車ブレーキロックレバー …………… 停車時に駐車ブレーキペダルを踏み込んだ状態で、このレバーを手前に引くと駐車ブレーキペダルが固定されます。
- ⑩ 駐車ブレーキペダル …………… 車体を確実に駐車させます。
- ⑪ スロットルレバー …………… エンジン回転数の増減を行います。
- ⑫ ダンプレバー …………… 荷台の上昇、下降を行うときに使用します。
- ⑬ ターンレバー …………… 荷台の回転を行うときに使用します。

製品仕様

5. 製品仕様

5.1 本製品の仕様

注 記

本製品の仕様を理解した上で、正しく本製品を使用してください。

名 称 ・ 型 式				S100	
				一方ダンプ	ターン&ダンプ
機 械 質 量		kg		880	910
最 大 作 業 能 力		kN(kgf)		9.7 (990)	
機 械 寸 法	全 長	mm		2740	2595
	全 幅	mm		980	980
	全 高	mm		1270	1265
	クローラ接地長さ	mm		1160	
	クローラ中心距離	mm		750	
	クローラ幅	mm		230	
	最低地上高	mm		145	
	床 面 高 さ	mm		555	620
荷 箱 寸 法	荷 箱 内 側 寸 法	長 さ	mm	1420	1340
		幅	mm	870	890
		高 さ	mm	320	490
	荷 台 容 積	平 積	m ³ (kg)	0.40 (880)	0.39 (860)
		山 積	m ³ (kg)	0.52 (1040)	0.50 (1000)
エ ン ジ ン	名 称			クボタ D 722	
	型 式			水冷4サイクルディーゼル	
	シリンダ (内径×行程)	mm		67 × 68	
	総 排 気 量	cc		719	
	最 大 出 力	kW(PS)/rpm		11.0/3000 (15.0/3000)	
	最 大 ト ル ク	N・m(kgf・m)/rpm		37.0/2200 (3.77/2200)	
	始 動 方 式			セルフスタータ	
	使 用 燃 料			軽油	
	燃 料 消 費 率	g/kW・h (g/PS・h)		312.7 (230)	
	燃 料 タ ン ク 容 量	ℓ		15.0	
	潤 滑 油 容 量	ℓ		3.15	

製品仕様

名 称 ・ 型 式			S100	
			一方ダンプ	ターン&ダンプ
電 装	バ ッ テ リ 形 式		75 D 23 R	
	バ ッ テ リ 容 量	V/AH	12/52	
走 行 性 能	走 行 速 度	km/h	0.0 ～ 5.4	
	最 小 回 転 半 径	m	1.70	1.55
	登 坂 能 力	度	25 (空車)	
H S T 油 量		ℓ	20	
動 力 伝 達 装 置	主 変 速 形 式		ツインHST	
	操 向 装 置 形 式		ツインHST 2本レバー	
	駐 車 ブ レ ー キ 形 式		内拵式ブレーキ	
ダ ンプ 装 置	ダ ンプ 方 式		一方ダンプ	ターン&ダンプ
	油 圧 ポ ンプ	形 式	ギヤポンプ	
		最 高 回 転 数	rpm	2300 2700
		最 大 吐 出 量	ℓ/min	11.0
		リ リ ー フ 設 定 圧	MPa(kgf/cm ²)	13.7 (140) 14.7 (150)
	シリンダ (内径×行程)		mm	60 × 300 60 × 400
	性 能	最 大 上 昇 角 度	度	67 90
		上 昇 時 間	sec	約 4.8 約 6.3
		下 降 時 間	sec	約 3.8 約 5.1
	油 圧 作 動 油 量		ℓ	1.6 HSTオイル兼用
回 転 装 置	回 転 方 式		—	油圧 (ツインシリンダ)
	最 大 回 転 角 度		度	— 右 90 ～ 左 90
	回 転 時 間		sec	— 約 3.0 (90°)
	シリンダ (内径×行程)		mm	— 50 × 160

※この仕様は、改良のため予告なく変更することがあります。

5.2 付属品明細

No.	部 品 名	個 数	備 考
1	取扱説明書 (本書)	1	
2	エンジン取扱説明書	1	
3	グリースニップル	1	M6

運転と操作

6. 運転と操作

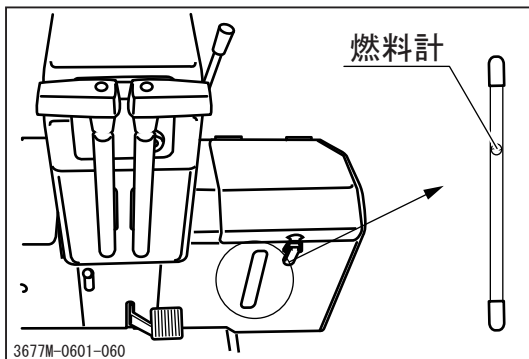
- 本章を読む前に「3. 安全運転・作業のための心得」(5～9 ページ) を必ずお読みください。
- 運転および操作については、必ず本章の指示に従い、自己判断による見切り操作は絶対に行わないでください。

6.1 始動前の準備

6.1.1 燃料の給油

⚠ 危険

- 給油の際は火気（タバコの火など）を絶対に燃料およびエンジンに近づけないでください。引火の原因となります。
- 給油は車体が水平な場所に駐車させ、必ずエンジンを停止した状態で行ってください。
- 給油の際に燃料注入口から燃料がこぼれないよう十分注意してください。燃料がこぼれた際には速やかにふき取ってください。

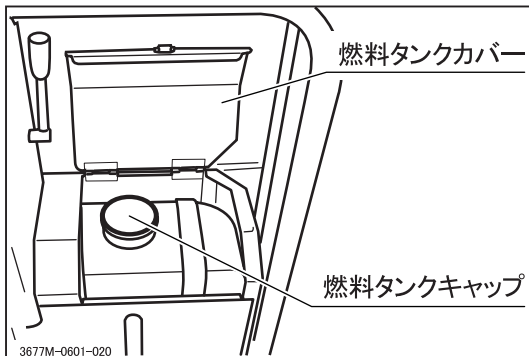


(残量の点検)

燃料計を目視点検し、燃料が不足している場合は燃料を補給します。

(補 給)

1. 燃料タンクカバーを開けます。
2. 燃料タンクキャップを開け、燃料を補給します。
3. 燃料タンクキャップを確実に閉じます。
4. 燃料タンクカバーを閉じます。



使用燃料：軽油

燃料タンク容量：15.0 ℓ

⚠ 注意

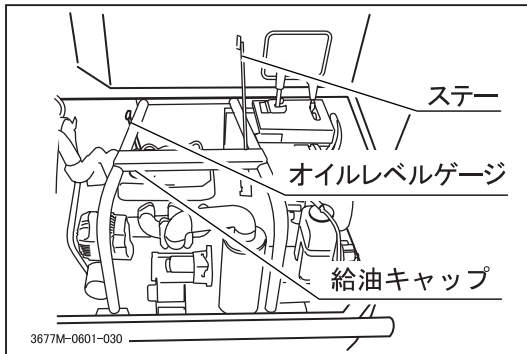
燃料タンクカバーで手をはさまないよう十分に注意してください。

運転と操作

6.1.2 エンジンオイル量の点検と補給

▲ 注 意

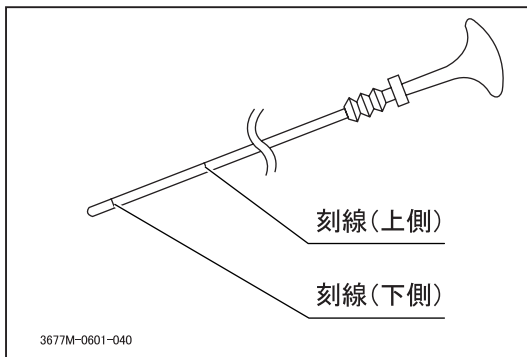
運転中およびエンジン停止直後は、エンジンカバー内各部が高温になっており、火傷をすることがありますので、エンジンが十分冷めてから（エンジン停止後約 10 分程度）開けてください。



注 記

エンジンオイルの点検・補給は、必ず水平な場所で行ってください。

1. エンジンカバーを開け、ステーでしっかり固定します。
2. オイルレベルゲージを引き抜きます。



▲ 注 意

- ステーは固定穴に確実に差し込んでください。ステーが外れるとエンジンカバーに体がはさまれることがあるので、注意が必要です。
- エンジンオイルレベルゲージの抜き差しは慎重に行ってください。強く引き抜くとケガや部品の破損の原因となります。

3. エンジンオイル量を点検し、規定量にない場合は給油キャップを開け、エンジンオイルを補給します。

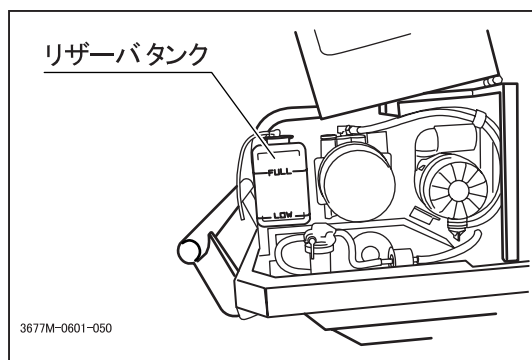
エンジンオイル規定量：レベルゲージの刻線の間
(上側と下側の間)

6.1.3 エンジン冷却水量の点検と補給

▲ 注 意

運転中およびエンジン停止直後に注水口のキャップを開けると、熱湯が噴出して火傷をすることがありますので、キャップは冷却水が冷めてから（エンジン停止後約 10 分程度）開けてください。

運転と操作



1. エンジンカバーを開け、ステーでしっかり固定します。
2. リザーバタンク内の冷却水量が「FULL」と「LOW」の間にあることを確認し、不足している場合は補給します。

冷却水量 : 1.8ℓ

リザーバタンク容量 : 0.7ℓ

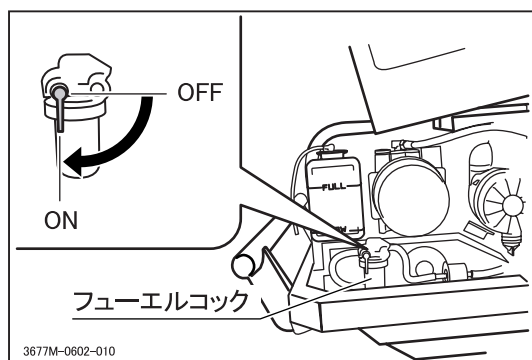
不凍液の混合については (☞ 38 ページ)

6.2 始動のしかた

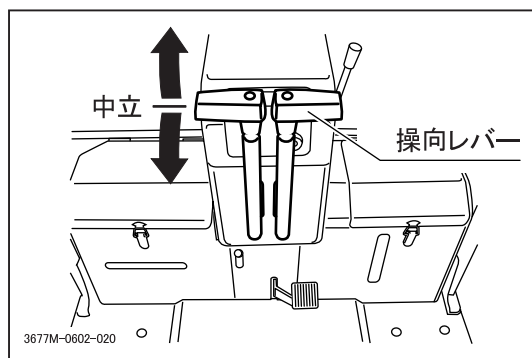
⚠ 危険

エンジンの始動は必ず換気のよいところで行ってください。

6.2.1 始動の準備

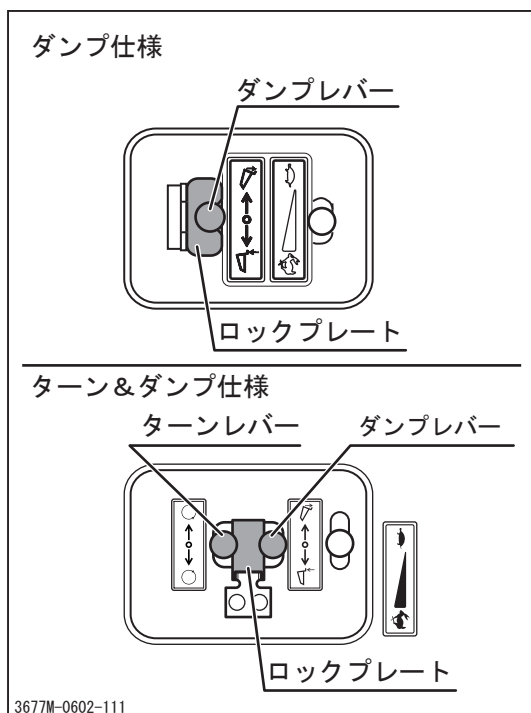


1. エンジンカバーを開け、ステーで固定します。
(☞ 15 ページ)
2. フューエルコックを「ON」の位置にします。



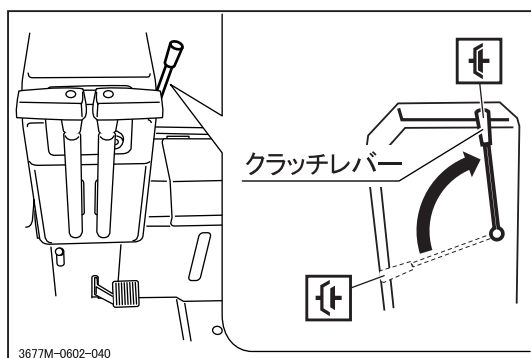
3. 操向レバーが「中立」の位置にあることを確認します。

運転と操作

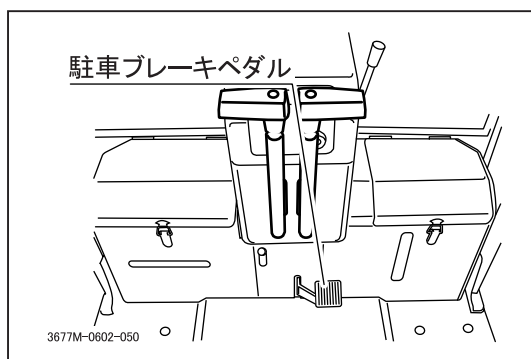


4. ダンプレバーとターンレバーが「中立」の位置にあることを確認し、ロックプレートでロックします。

6.2.2 通常の始動



1. クラッチレバーを「 (入)」の位置にします。



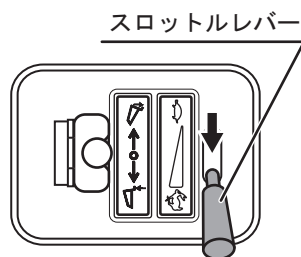
2. 駐車ブレーキペダルを踏み込みます。

注 記

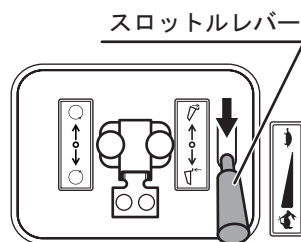
本製品はセーフティスイッチ付ですので、操向レバーが「中立」、駐車ブレーキペダルが、ロックの位置でないと始動できません。

運転と操作

ダンプ仕様

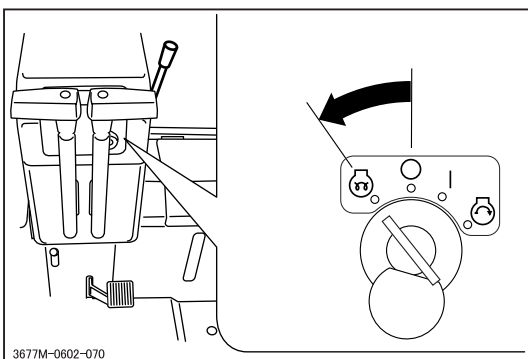


ターン&ダンプ仕様



3677M-0602-121

- スロットルレバーを「 (高速)」の位置にします。

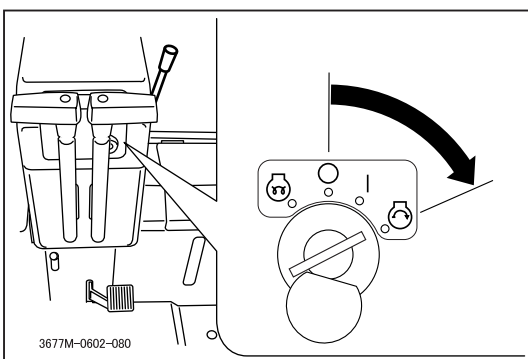


3677M-0602-070

- エンジンキーを差し込み「 (予熱)」の位置まで回し、十分暖めます。

注 記

- 常温始動で約 10 秒間、寒冷時（外気温が0℃以下）の始動時には約 20 ～ 30 秒間予熱してください。
- エンジンが暖まっている場合は、予熱する必要はありません。



3677M-0602-080

- エンジンキーを「 (始動)」の位置まで回してエンジンを始動します。（始動後はキーから手をすぐに離してください。キーは自動的に「 (ON)」の位置に戻ります。）

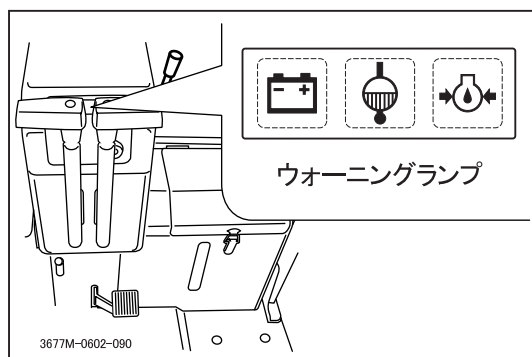
注 記

- 始動しない場合、15 秒以上連続してセルモータを回さないでください。キーを運転位置に戻し、30 秒くらい休んでから、再始動してください。
- 頻繁なセル始動はなるべく避け、セルモータを起動したならば連続運転して、バッテリーを充電してください。

運転と操作

▲ 注 意

エンジン回転中は、キースイッチを「始動」の位置に絶対に回さないでください。セルモータの破損、エンジンの故障の原因になります。



6. 各ウォーニングランプ（チャージランプ、冷却水温ランプ、オイルランプ）が消灯していることを確認します。

注 記

これらのウォーニングランプはエンジンを始動させると消灯します。エンジンを始動させた後も点灯したままの場合は、「9. 不具合発生時の処置」を参照して、適切な処置をしてください。（☞ 54 ～ 57 ページ）

7. 約 5 分間、無負荷で暖機運転します。

注 記

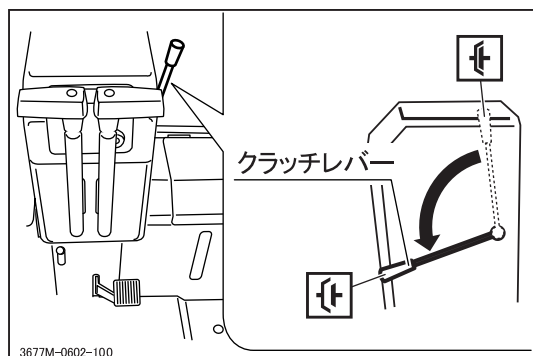
- 冬期または寒冷地では十分に暖機運転を行ってください。エンジンが十分に暖まらないうちに運転すると、エンジンや油圧機器の寿命を短くすることになります。
- 購入後、最初の一週間（約 40 ～ 50 時間）は、ならし運転期間として、過負荷をかけないように運転してください。

運転と操作

6.2.3 寒冷時の始動

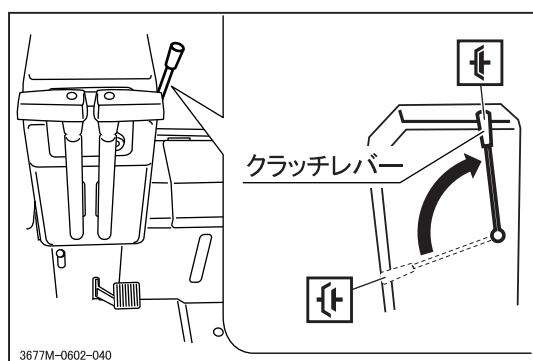
注 記

寒冷時（外気温0℃以下のとき）等エンジンが始動しにくいときは、下記の要領にしたがってエンジンを始動させることで、バッテリーの負荷を軽減させることができます。



1. クラッチレバーを「（切）」の位置にします。
2. 駐車ブレーキペダルを踏み込みます。
3. スロットルレバーを「（高速）」の位置にします。
4. エンジンキーを「（予熱）」の位置まで回し、十分暖めます。
5. エンジンキーを「（始動）」の位置まで回してエンジンを始動します。（始動後はキーから手をすぐに離してください。キーは自動的に「（ON）」の位置に戻ります。）
6. 各ウォーニングランプ（チャージランプ、冷却水温ランプ、オイルランプ）が消灯していることを確認します。

（参考：📖 19 ページ）



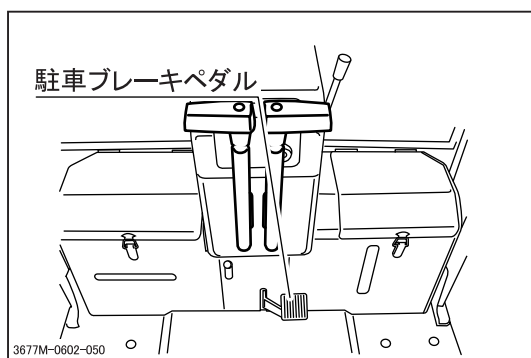
7. クラッチレバーを「（入）」の位置にします。
8. 約5分間、無負荷で暖機運転します。

運転と操作

6.3 運転のしかた

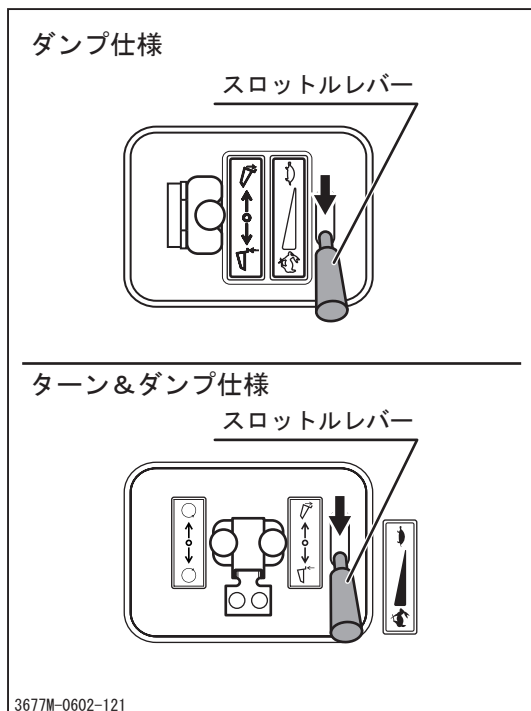
⚠ 危険

- 本機の周辺に人を近づけないでください。
- 本機の前下方と後部は死角になります。運転する前に障害物や人がいないか十分確認してください。
- 旋回時は周囲の安全を必ず確認してください。
- スピードを上げて急旋回すると、運転者が振り落とされたり、車両が転倒するおそれがあり、危険です。



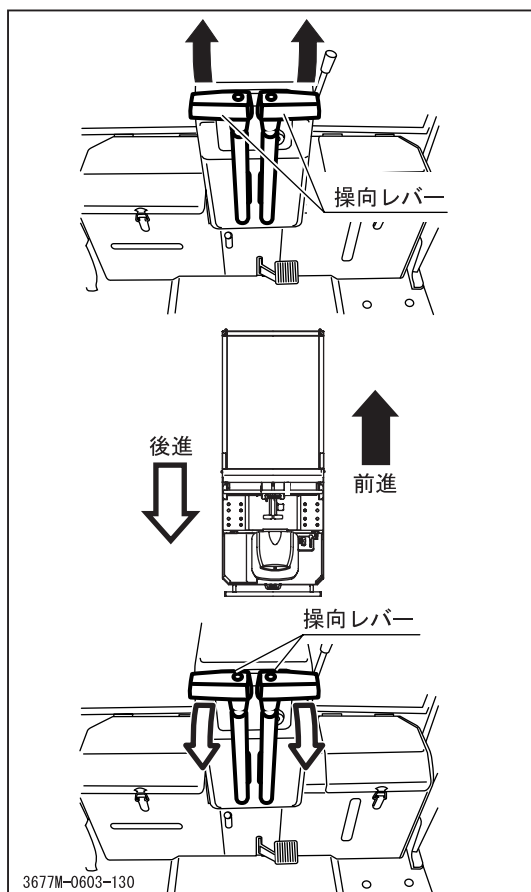
(走行準備)

1. 車両の前後、左右の安全を確認します。
2. 駐車ブレーキロックの解除を確認します。



3. スロットルレバーを「 (高速)」の位置にし、エンジン回転数を上げておきます。

運転と操作



(前進する場合)

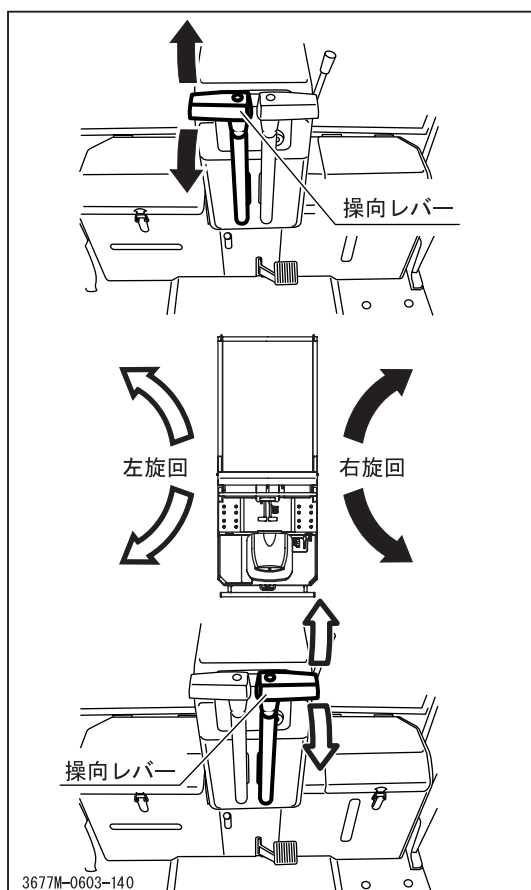
両方の操向レバーを徐々に前方に倒し、車体をゆっくり前進させます。

走行速度は操向レバーを倒す力（量）により、任意に調節することができます。

(後進する場合)

両方の操向レバーを徐々に後方に倒し、車体をゆっくり後進させます。

走行速度は操向レバーを倒す力（量）により、任意に調節することができます。



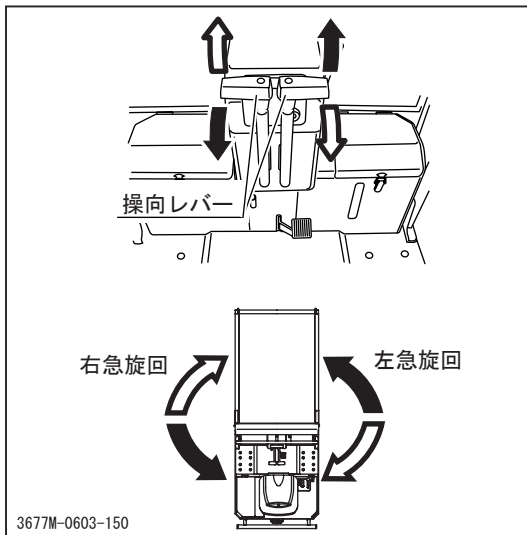
(右に旋回する場合)

- 前進で右に旋回するときは、左側の操向レバーを徐々に前方に倒します。
- 後進で右に旋回するときは、左側の操向レバーを徐々に後方に倒します。

(左に旋回する場合)

- 前進で左に旋回するときは、右側の操向レバーを徐々に前方に倒します。
- 後進で左に旋回するときは、右側の操向レバーを徐々に後方に倒します。

運転と操作



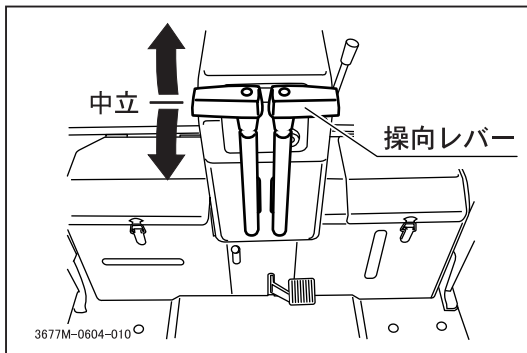
(急旋回する場合)

- 右へ急旋回するときは、右側の操向レバーを後方に、左側の操向レバーを前方に倒します。
- 左へ急旋回するときは、左側の操向レバーを後方に、右側の操向レバーを前方に倒します。

注 記

- 駐車ブレーキペダルを踏み込んだ状態で、操向レバーを操作しないでください。
- 操向レバーは必ず中立位置で手を離してください。
- 走行中にエンジンキーを「○ (OFF)」の位置に回さないでください。
バランスがくずれ、車体の前後が浮き上がる場合があります。

6.4 停止のしかた

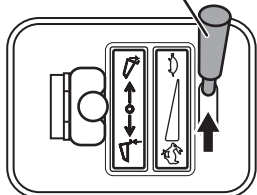


1. 両方の操向レバーを「中立」の位置に戻し、車体を停止させます。
2. 駐車ブレーキペダルを踏み込みます。

運転と操作

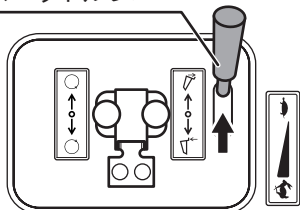
ダンプ仕様

スロットルレバー



ターン&ダンプ仕様

スロットルレバー

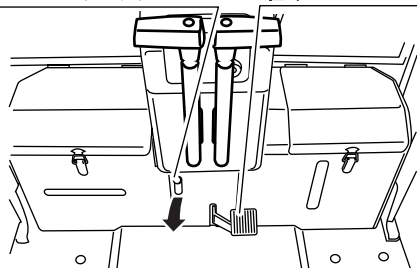


3677M-0604-071

3. スロットルレバーを「 (低速)」の位置にし、エンジンの回転数を落とします。

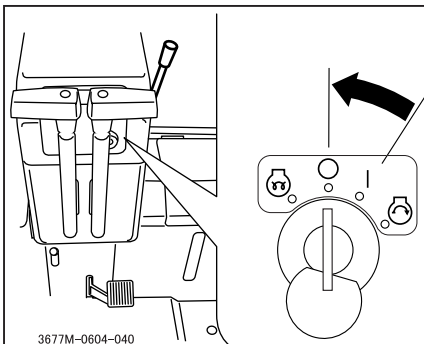
駐車ブレーキロックレバー

駐車ブレーキペダル



3677M-0604-030

4. 駐車ブレーキペダルを踏み込んだまま、駐車ブレーキロックレバーを引き、駐車ブレーキペダルを固定します。

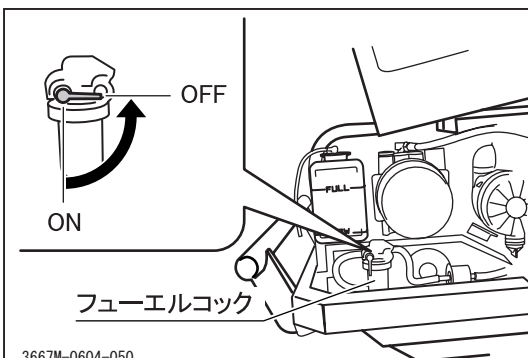


3677M-0604-040

5. キースイッチを「○ (OFF)」の位置に回し、キーを抜きます。

6. エンジンカバーを開け、ステーで固定します。
( 15 ページ)

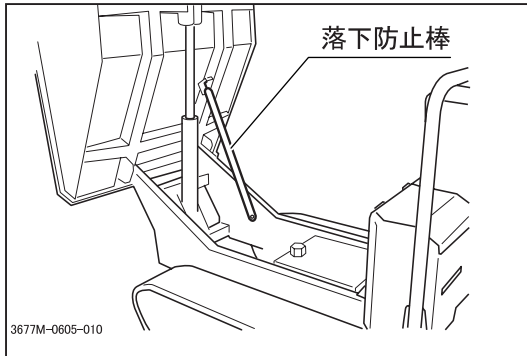
7. フューエルコックを「OFF」の位置にします。



3667M-0604-050

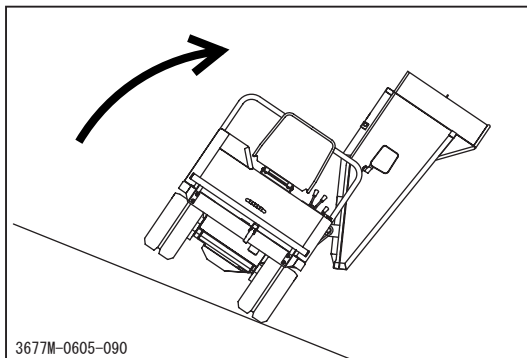
運転と操作

6.5 ダンプ操作



⚠ 危険

- 荷台を上昇したまま荷台下等の点検を行う場合は、危険防止のため、本体に備え付けの落下防止棒にて荷台を確実に支えてください。また、同時にダンプレバーをロックプレートにてロックしてください。
- ダンプ操作時は、周囲の安全確認を必ず行ってください。



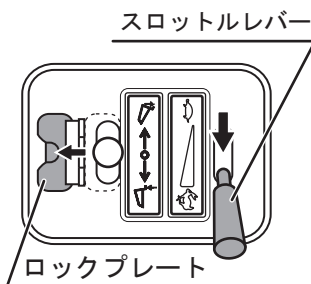
⚠ 危険

荷台を回転させて斜面谷側へ排出すると、転倒のおそれがあり非常に危険ですので行わないでください。

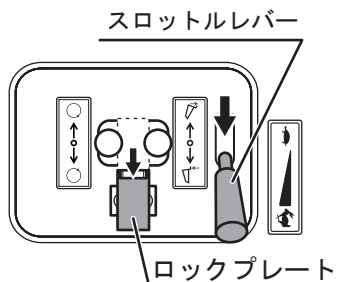
⚠ 警告

- 急傾斜地でのダンプ操作は、車体が不安定になり、非常に危険ですので行わないでください。やむを得ず坂道でダンプ操作を行う場合は、慎重に操作してください。
- 傾斜地での荷台の回転操作は、車体が不安定になり、非常に危険ですので行わないでください。

ダンプ仕様



ターン&ダンプ仕様

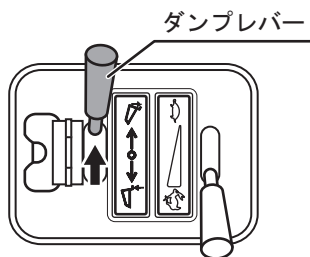


3677M-0605-131

1. エンジンを始動し、スロットルレバーを「 (高速)」の位置にして、エンジン回転数を上昇させます。
2. ダンプレバーのロックプレートを解除します。

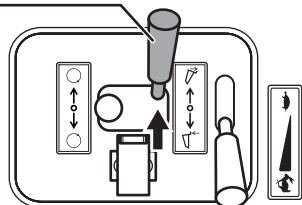
運転と操作

ダンプ仕様



ターン&ダンプ仕様

ダンプレバー



3677M-0605-141

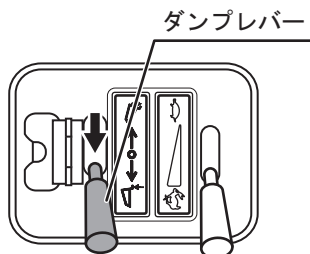
(荷台を上昇させる場合)

3. ダンプレバーを「 (上昇)」の方向に倒します。
4. 荷台が上限まで上がるとリリース作動音（ヒュー音）がしますので、ダンプレバーをすばやく「○ (中立)」に戻します。

▲ 注 意

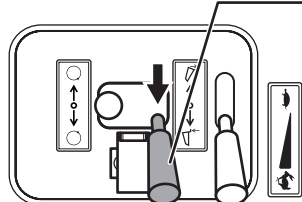
荷物を積載したまま荷台を下降させる場合、車体に衝撃を与えないよう、エンジン回転数を低くして荷台をゆっくり下げてください。

ダンプ仕様



ターン&ダンプ仕様

ダンプレバー



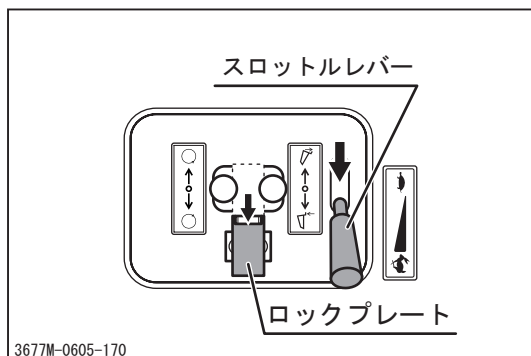
3677M-0605-081

(荷台を下降させる場合)

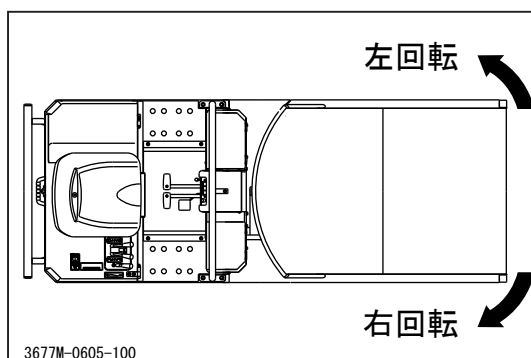
5. ダンプレバーを「 (下降)」の方向に除々に倒します。
6. 荷台が下限まで下がるとリリース作動音（ヒュー音）がしますので、ダンプレバーをすばやく「○ (中立)」に戻します。

運転と操作

6.5 ターン操作



1. エンジンを始動し、スロットルレバーを「 (高速)」の位置にして、エンジン回転数を上昇させます。
2. ダンプレバーのロックプレートを解除します。

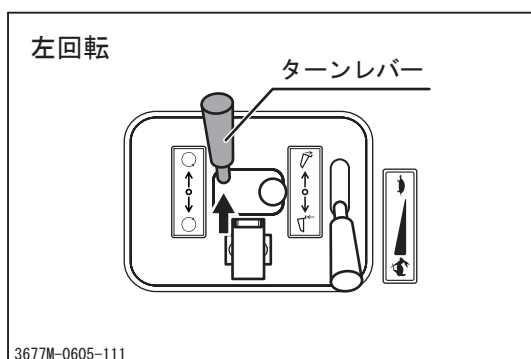


(荷台を左回転させる場合)

4. ターンレバーを「 (左回転)」の方向 (前方) に倒します。

最大回転角 : 90°

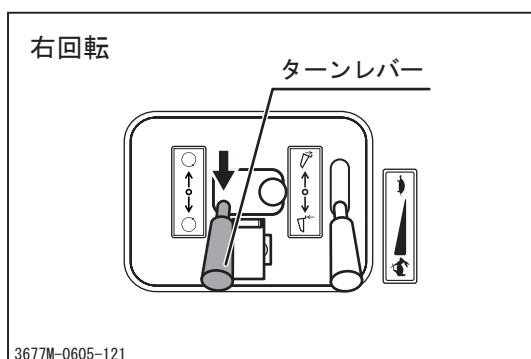
5. 最大回転角まで回転させるとリリース作動音 (ヒュー音) がしますので、ターンレバーをすばやく「○ (中立)」に戻します。



(荷台を右回転させる場合)

7. ターンレバーを「 (右回転)」の方向 (後方) に倒します。

最大回転角 : 90°



8. 最大回転角まで回転させるとリリース作動音 (ヒュー音) がしますので、ターンレバーをすばやく「○ (中立)」に戻します。

保守（お手入れ）

7. 保守（お手入れ）

7.1 定期点検表

- 点検や整備を怠ると事故の原因となることがあります。本製品の正常な機能を維持し、いつも安全な状態で運転または作業をするために、下表を参考に点検を行ってください。
- 年次点検は1年に1回、月例点検は1ヶ月に1回、始業点検は作業を開始する前に毎日、点検を行うようにしてください。

注 記

下表の点検内容の中には、専門的な知識を必要とするものや所定の工具や計器が必要なものが含まれています。ユーザー自身で実施できない点検内容については販売店（当社センター）へ依頼してください。

項 目			点 検 内 容	点検時期			備 考
				始業	月例	年次	
原 本 機	始 動 性	・ エンジンのかかり具合および異音の有無を調べる。	始動が容易で、異音がないこと。	○	○	○	
		・ グロープラグの作動の適否を調べる。	正常に作動すること。	○	○	○	
	回 転 の 状 態	・ アイドリング時および無負荷最高回転時の回転数を調べる。また、回転が円滑に続くか調べる。	正規の回転数であること。回転が円滑に続くこと。		○	○	販売店へ点検を依頼してください。
		・ エンジンを加速したとき、スロットルレバーの引っかかり、エンジン停止およびノッキングの有無を調べる。	引っかかり、エンジン停止またはノッキングがないこと。	○	○	○	
	排 気 の 状 態	・ エンジンを十分に暖機した状態でアイドリング時から高速回転時まで排気色および排気音の異常の有無を調べる。	排気色および排気音が正常であること。	○	○	○	
		・ 排気管、マフラ等からのガス漏れの有無を調べる。	ガス漏れのしないこと。		○	○	
	エ ア ク リ ー ナ	・ ケースの亀裂、変形およびふた部、接続管の緩みの有無を調べる。	ケースの亀裂、変形またはふた、接続管に緩みがないこと。		○	○	
		・ エアクリーナエレメントの汚れおよび損傷の有無を調べる。	著しい汚れまたは損傷がないこと。		○	○	清掃 / 交換 ☞ 41 ページ
	締 め 付 け	・ シリンダヘッドおよびマニホールドの締付部のボルトおよびナットの緩みの有無を調べる。 * これらの部分からガス漏れや水漏れが認められない場合は、この検査を省略してもよい。	緩みがないこと。			○	
	圧 縮 圧 力	・ 圧縮圧力を調べる。 * アイドリング時および加速時の回転状態ならびに排気の状態に異常がなければこの検査を省略してもよい。	正規の圧縮圧力であること。			○	販売店へ点検を依頼してください。

保守（お手入れ）

項 目			点 検 内 容	点検時期			備 考	
				始 業	月 例	年 次		
原 動 機	本 体	エ ン ジ ン マ ウ ン ト	・ エンジンベースの亀裂および変形の有無を調べる。	亀裂または変形がないこと。	○	○	○	
			・ 取り付けボルトおよびナットの緩みおよび脱落の有無を調べる。	緩みまたは脱落がないこと。	○	○	○	
	潤 滑 装 置		・ 油量および油の汚れを調べる。	油量が適正で著しい汚れがないこと。	○	○	○	点検 / 交換 ☞ 34 ページ
			・ ヘッドカバー、オイルパン、パイプ等からの油漏れの有無を調べる。	著しい油漏れがないこと。	○	○	○	
			・ オイルフィルタの汚れおよび詰まりの有無を調べる。	著しい汚れまたは詰まりがないこと。			○	交換 ☞ 43 ページ
	燃 料 装 置		・ 燃料タンク、噴射ポンプ、ホース、パイプ等からの燃料漏れの有無を調べる。	燃料漏れののないこと。	○	○	○	
			・ 燃料ホースの損傷および劣化の有無を調べる。	損傷または劣化がないこと。	○	○	○	
			・ フューエルフィルタの汚れおよび詰まりの有無を調べる。	著しい汚れまたは詰まりがないこと。		○	○	清掃 ☞ 43 ページ
			・ 噴射ノズルの噴射圧力および噴霧状態の異常の有無を調べる。 *アイドリング時および加速時の回転状態ならびに排気の状態に異常がなければ、この検査を省略してもよい。	正規の噴射圧力であり、噴霧が正常であること。			○	販売店へ点検を依頼してください。
	機 冷 却 装 置		・ 冷却水の量および汚れの有無を調べる。	水量が適正で著しい汚れがないこと。	○	○	○	点検 ☞ 38 ページ
			・ ラジエータ、エンジン本体、ウォーターポンプ、ホース等からの水漏れの有無およびラジエータのフィン目詰まりの有無を調べる。	水漏れまたは目詰まりがないこと。	○	○	○	
			・ ホースの損傷および劣化の有無を調べる。	損傷または劣化がないこと。	○	○	○	
			・ ラジエータキャップのバルブ機能の適否を調べる。	正常に機能すること。			○	
			・ ラジエータキャップのバルブシート面の損傷の有無を調べる。	損傷がないこと。			○	
			・ ファンベルトの張りを調べる。	基準値以内であること。			○	点検 / 調整 ☞ 46 ページ
			・ ベルトの磨耗および損傷の有無を調べる。	著しい磨耗または損傷がないこと。			○	
			・ 冷却ファン、カバー、ダクト等の亀裂、損傷および変形の有無を調べる。	亀裂、損傷または著しい変形がないこと			○	
			・ 冷却ファン、カバー等の各取り付けボルトおよびナットの緩みの有無を調べる。	緩みのないこと。			○	

保守（お手入れ）

項 目			点 検 内 容	点検時期			備 考	
				始 業	月 例	年 次		
原 動 機 装 置	電 気 装 置	充 電 装 置	・電流計により機能の異常の有無を調べる。	正常に作動すること。			○	販売店へ点検を依頼してください。
		バ ッ テ リ	・電解液の量が規定の範囲にあるか調べる。	規定範囲にあること。		○	○	点検 / 補給 ☞ 39 ページ
			・端子部の緩みおよび腐食の有無を調べる。	緩みまたは著しい腐食がないこと。		○	○	
		配 線	・接続部の緩みの有無を調べる。	緩みがないこと。		○	○	
	・配線の損傷の有無を調べる。		損傷がないこと。		○	○		
動 力 伝 達 装 置	V ベ ル ト	・外観の損傷および汚れの有無を調べる。	損傷がなく油脂類の付着がないこと。		○	○		
		・Vベルトの張りについて調べる。	適正な張りであること。		○	○		
	H S T ポンプ	・操向レバーを前進、後進および旋回状態にして走行し、作動状態異音および異常発熱の有無を調べる。	正常に作動し、異音または異常発熱がないこと。	○	○	○		
		・作動油タンク内の油量を調べる。	油量が適正であること。		○	○	点検 / 交換 ☞ 36 ページ	
		・油の汚れを調べる。	著しい汚れがないこと。		○	○	点検 / 交換 ☞ 36 ページ	
		・作動油タンク周辺からの油漏れの有無を調べる。	油漏れのしないこと。		○	○		
走 行 装 置	スプロケット 遊 動 輪 転 輪 支 持 転 輪	・亀裂、変形および磨耗の有無を調べる。	亀裂、変形または著しい磨耗がないこと。	○	○	○		
		・走行して軸部の異音および異常発熱の有無を調べる。	異音または異常発熱がないこと。	○	○	○		
		・取り付けボルトおよびナットの緩みおよび脱落の有無を調べる。	緩みまたは脱落がないこと。	○	○	○		
		・軸部周辺からの油漏れの有無を調べる。	油漏れがないこと。	○	○	○		
	ク ロ ー ラ	・スチールコードの切断および損傷の有無を調べる。	切断または著しい損傷がないこと。	○	○	○		
		・ゴムの欠け、劣化および磨耗の有無を調べる。	著しい欠け、劣化または磨耗がないこと。	○	○	○		
		・芯金の脱落および折れの有無を調べる。	芯金の脱落がないこと。	○	○	○		
		・クローラの張り具合を調べる。	緩みまたは張り過ぎがないこと。	○	○	○	調整 ☞ 46 ページ	
	ク ロ ー ラ 張 り ボ ル ト	・張りボルトの変形、腐食の有無を調べる。	変形、腐食がないこと。		○	○		
	車 体	・亀裂、変形および損傷の有無を調べる。	亀裂、変形または損傷がないこと。		○	○		
制 動 装 置	駐 車 ブ レ ー キ	・駐車ブレーキペダルを駐車ブレーキロックレバーで固定した状態で1/5 勾配の床面で停止の状態に保持できるかを調べる。	効き具合が適正であること。	○	○	○		
	ロッド、リンク お よ び ワ イ ヤ 類	・ロッド、リンクおよびワイヤ類の損傷ならびに取付部の緩みの有無を調べる。	損傷または緩みがないこと。		○	○		

保守（お手入れ）

項 目		点 検 内 容	点検時期			備 考
			始 業	月 例	年 次	
油 圧 装 置	油 圧 ポンプ	・パイプおよびホースとの継手部ならびにシール部からの油漏れの有無を調べる。	○	○	○	
		・油圧ポンプを作動させ、無負荷および負荷状態における異常振動、異音および異常発熱の有無を調べる。		○	○	
		・油圧ポンプに負荷をかけて負荷時の吐出量および吐出圧力を調べる。ただし、上記項目の異常振動、異音および異常発熱の検査で異常がなければ、この検査は省略しても良い。			○	
	配 管 (ホース類、 高圧パイプ)	・配管の亀裂、損傷、老化およびねじれの有無を調べる。	○	○	○	
		・配管継手部からの油漏れの有無を調べる。	○	○	○	
		・配管の取り付け状態の適否ならびにボルトおよびナットの緩みおよび脱落の有無を調べる。	○	○	○	
	油圧シリンダ	・作動状態を調べる。	○	○	○	
		・シリンダを数回伸縮作動させた後、シール部等からの油漏れの有無を調べる。		○	○	
		・シリンダに負荷をかけて静止させ、シリンダの伸縮量を調べる。			○	
		・シリンダチューブおよびロッドの打こん、亀裂、曲がりおよび擦り傷の有無を調べる。		○	○	
		・シリンダ取付ピンの磨耗、損傷の有無を調べる。	○	○	○	
	コントロール バルブ	・スプールを動かし円滑に作動するか調べる。	○	○	○	
		・取り付け状態の適否を調べる。		○	○	
		・油圧シリンダを作動させる等して負荷をかけ、作動の適否を調べる。	○	○	○	
		・本体、配管および継手部から油漏れの有無を調べる。	○	○	○	
荷 役 装 置	荷 台	・荷台の上昇および下降が円滑に行えるかを調べる。	○	○	○	
		・各部の亀裂、変形および磨耗の有無を調べる。	○	○	○	
		・取付ボルトの緩みおよび脱落の有無を調べる。	○	○	○	
		・荷台を上下させてフレームと荷台との取付ピンおよびダンブシリンダ取付ピン等のガタを調べる。		○	○	
		・亀裂、変形、腐食の有無を調べる。	○	○	○	

保守（お手入れ）

項 目		点 検 内 容	点検時期			備 考	
			始業	月例	年次		
車 体 ・ 安 全 装 置 等	車 お よ び 車 体	・取付ボルトおよびナットの緩みおよび脱落の有無を調べる。	緩みまたは脱落がないこと。	○	○	○	
		・亀裂、変形、腐食の有無を調べる。	緩みまたは著しい変形、腐食がないこと。	○	○	○	
	カバ ー	・カバーの開閉状態ならびにロックの異常の有無を調べる。	開閉、ロックに異常がないこと。		○	○	
	表 示 板 (マ ー ク)	・構造規格に規定された表示板その他の注意・指示銘板等が損傷なく取り付けられているかを調べる。	損傷なく取り付けられていること。		○	○	
	警 音 器	・スイッチを操作して作動の適否を調べる。	正常に作動すること。	○	○	○	
	給 油 脂	・各部の給油脂状態を調べる。	給油脂が十分であること。		○	○	給脂 ☞ 37 ページ
	荷 落 下 防 止 台 棒	・荷台を上げて、装置の取り付け状態を調べる。	確実に取り付けられていること。	○	○	○	
		・曲がりおよび変形の有無を調べる。	著しい曲がりまたは変形がないこと。	○	○	○	
・荷台落下防止棒、ストップ等の取り付け部の亀裂および損傷の有無を調べる。		亀裂または損傷がないこと。		○	○		
総 合 テ ス ト		・走行および荷役装置の操作を行い、機能を調べる。	各装置が正常に作動し、異音、異常振動または異常発熱がないこと。			○	

7.2 給油・給脂・注油・給水一覧表

項 目	補 給（ 交 換 ） 時 期	推 奨 品	容 量	参 照 ペ ー ジ
燃 料	随 時	軽油	15.0 ℓ	☞ 15 ページ
エ ン ジ ン オ イ ル	(補給) 毎日点検し、不足時に補給 (交換) 初回：50 時間 2 回目以降：100 時間毎	API 分類 CD 級以上 または SAE 分類 10W-30	3.15 ℓ	☞ 34 ページ
ト ラ ン ス ミ ッ シ ョ ン オ イ ル	初回：50 時間 2 回目以降：100 時間毎	ギヤオイル API 分類 GL 4 または 5 SAE 分類 #80	2.0 ℓ	☞ 35 ページ
H S T オ イ ル	初回：50 時間 2 回目以降：500 時間毎	高粘度脂数油圧作動油 VG46	20.0 ℓ	☞ 36 ページ
各 注 油 箇 所	6 ヶ月毎 * 購入後半年は注油不要	ギヤオイル API 分類 GL 4 または 5 SAE 分類 #80	-	☞ 37 ページ
各 給 脂 箇 所	6 ヶ月毎 * 購入後半年は給脂不要	シャージグリース	-	☞ 37 ページ
エ ン ジ ン 冷 却 水	毎日点検し、不足時に補給 交換：2 年毎	不凍液混合水	1.8 ℓ	☞ 38 ページ
バ ッ テ リ 液	毎日点検し、不足時に補給	蒸留水	-	☞ 39 ページ

保守（お手入れ）

7.3 消耗部品（交換部品）一覧表

項 目	部 品 番 号	交 換 時 期	個 数	参 照 照
エアクリーナエレメント	クボタ品番 67980-82632	1年毎または600時間後	1	☞ 41 ページ
フューエルフィルタ	3714 0051 400	100時間毎に点検し、必要に応じて交換	1	☞ 43 ページ
エンジンオイル フィルタ	クボタ品番 15853-3243-0	初回：50時間 2回目以降：150時間毎	1	☞ 42 ページ
サクシヨン フィルタ	一方 3663 6014 000	1年毎または500時間後	1	☞ 43 ページ
	回 転 3663 6029 000		1	☞ 43 ページ
ラインフィルタ	3676 6121 200		1	☞ 43 ページ
V ベルト	走行 0853 1500 060	不具合があれば交換	1	☞ 45 ページ
	一方 0852 1300 029	不具合があれば交換	1	☞ 45 ページ
	回 転 油 圧 0852 1300 028			
ブレーキライニング		7301 4007 000	不具合があれば交換	2 (セットで交換)
油圧ホース	H S T 用	パーツリストを参照してください。	1	交換については販売店へ依頼してください
	オイルクーラ用		1	
	ダンプ用		1	
	回 転 用		1	
クローラ	オーツ製	3677 2012 000	不具合があれば交換	2 ☞ 46 ページ
	B S 製	3677 2013 000	不具合があれば交換	2 ☞ 46 ページ
バッテリー		3673 0655 000	不具合があれば交換	1
上記以外で点検上交換が必要と思われる部品については、販売店または当社センターまでお問い合わせください。				

注 記

油圧ホースなどのゴム製品は使わなくても劣化する消耗品です。2年ごと、または傷んだときには、新品と交換してください。

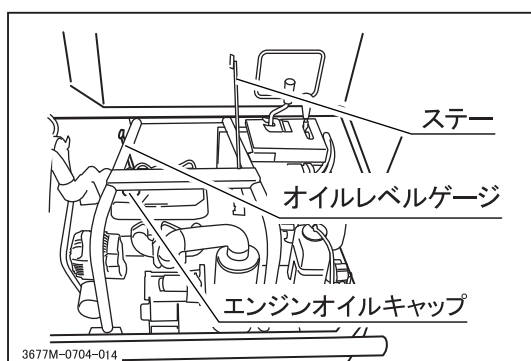
保守（お手入れ）

7.4 給油

注 記

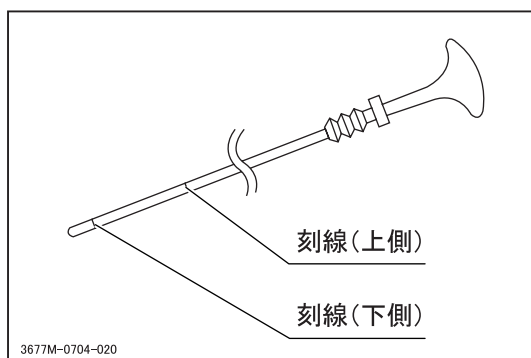
- 給油がおろそかになると、回転が円滑に行われなくなり、故障の原因となり、本製品の寿命を短くしますので常に指定の良質オイルを過不足なく給油してください。
- 必ず車体を水平な場所で、エンジンを停止してから点検・交換および給油を行ってください。

7.4.1 エンジンオイル



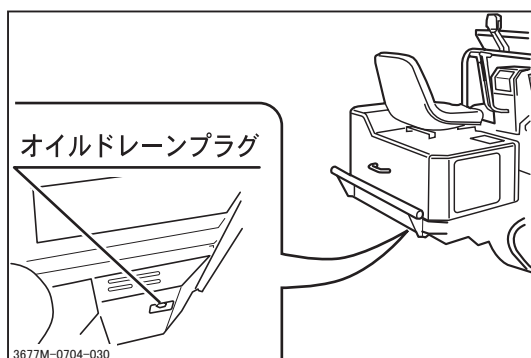
(点 検 / 補 給)

1. エンジンカバーを開け、ステアで固定します。
(☞ 15 ページ)
2. オイルレベルゲージを引き抜き、きれいな布でオイルをふき取ります。
3. オイルレベルゲージを差し込んで再度引き抜きます。
4. エンジンオイル量を点検し、不足している場合はオイルレベルゲージの上限まで補給します。
5. エンジンオイルの汚れを点検し、汚れがひどい場合はエンジンオイルを交換します。



(交 換)

1. オイルを抜き取る適当な容器を用意します。
2. オイルドレンプラグを取り外し、クランクケース内のオイルを排出します。



▲ 注 意

オイル高温時には火傷のおそれがあります。

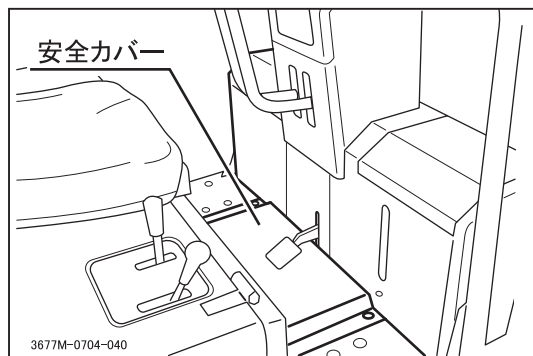
注 記

廃油は適切な処理をしてください。

3. オイルドレンプラグを確実に取り付けます。
4. エンジンオイルキャップを取り外し、指定のオイルを規定量まで注入します。
5. エンジンオイルキャップを確実に取り付けます。

保守（お手入れ）

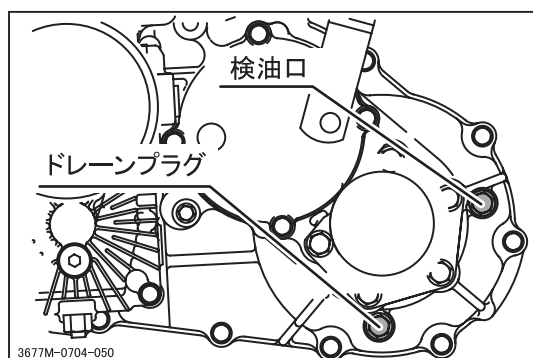
7.4.2 トランスミッションオイル



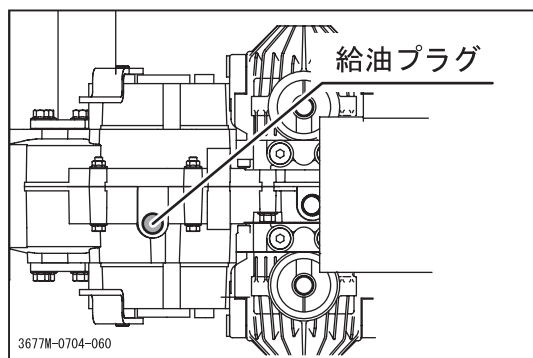
（点 検 / 補 給）

1. 安全カバーを取り外します。
2. 検油口ボルトを取り外し、検油口の位置に油面があることを確認します。
3. オイル量および汚れについて目視点検し、オイルが不足している（検油口までオイルが達していない）場合および汚れがひどい場合は、補給または交換します。
4. 給油プラグを取り外し、指定のオイルを注入します。
5. オイル量を確認し、給油プラグを取り付けます。

使用オイル： 32 ページ



6. 安全カバーを取り付けます。



（交 換）

1. オイルを抜き取る適当な容器を用意します。
2. ドレーンプラグを取り外し、オイルを抜き取ります。

▲ 注 意

オイル高温時には火傷のおそれがあります。

注 記

廃油は適切な処理をしてください。

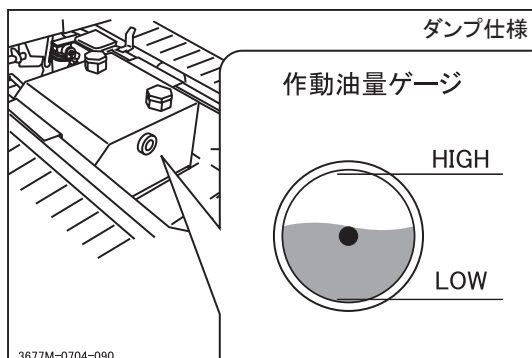
3. ドレーンプラグを確実に取り付けます。
4. 給油プラグを取り外し、指定のオイルを規定量まで注入します。
5. 給油プラグを確実に取り付けます。

保守（お手入れ）

7.4.3 HSTオイル

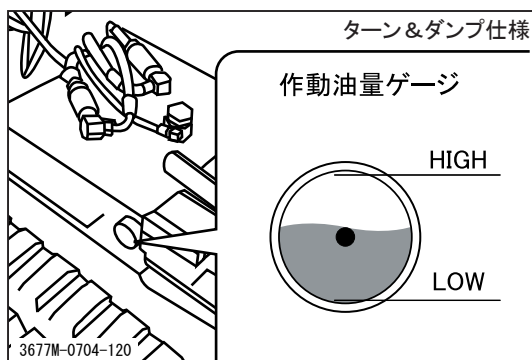
注 記

オイルが減るとホースおよびポンプ等に空気が入り、油圧機器の作動が悪くなりますので、定期的にオイルの点検を行い、不足している場合は補給してください。



（点 検 / 補 給）

1. 平坦な場所で荷台を上昇させ、ダンプレバーをロックプレートでロックし、荷台落下防止棒にて荷台を確実に支えてください。
2. 作動油量ゲージの中に作動油の油面があることを確認し、オイル量が不足している場合はオイルを補給します。



（交 換）

1. オイルを抜き取る適当な容器を用意します。
2. ドレーンプラグを取り外し、オイルを抜きます。

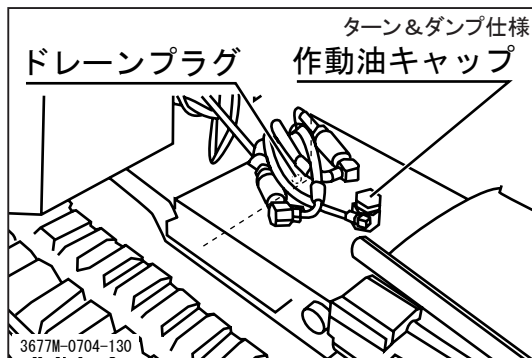
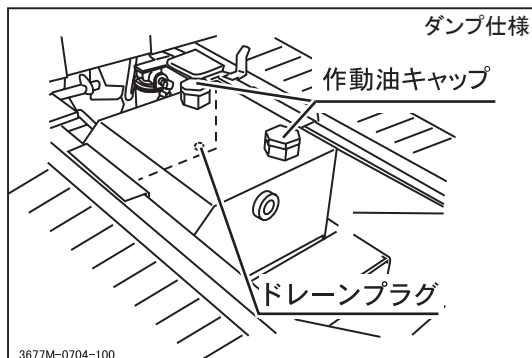
▲ 注 意

オイル高温時には火傷の恐れがあります。

注 記

廃油は適切な処理をしてください。

3. ドレーンプラグを確実に取り付けます。
4. 作動油キャップを取り外します。
5. 給油口より指定のオイルを補給します。
6. 作動油キャップを取り付けます。
7. エンジンを始動し、オイルを循環させます。
8. 作動油ゲージにて規定量入っているか確認します。



使用オイル： 32 ページ

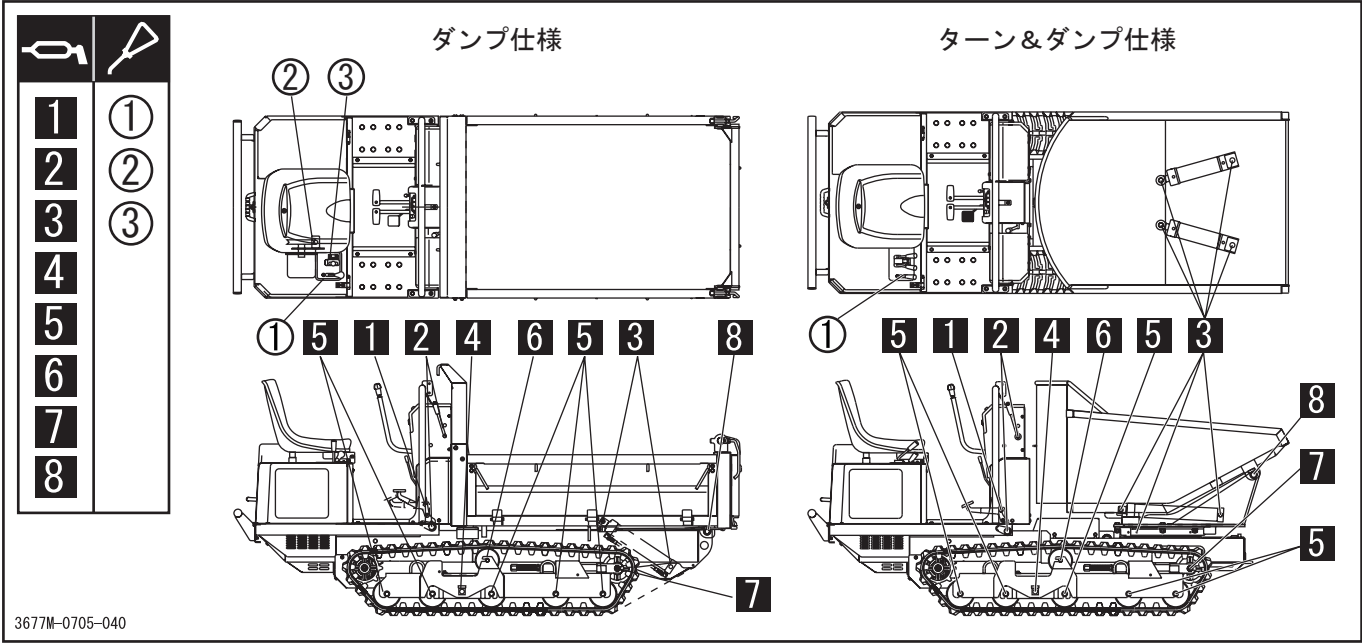
保守（お手入れ）

7.5 給脂・注油

注 記

給脂および注油がおろそかになると、焼き付きや錆び付きの原因となり、回転や作動が円滑に行われなくなりますので、定期的に給脂および注油を行ってください

図示箇所に給脂・注油します



No.	給 脂 ・ 注 油 箇 所	箇 所 数	種 類
①	駐車ブレーキペダルリンク部	1	グリース給脂
②	クラッチレバー支点	2	
③	油圧シリンダ支点・(旋回輪)	2 (7)	
④	スイングローラ支点	2	
⑤	ローラ軸＊	10	
⑥	アッパーローラ	2	
⑦	アイドラ	2	
⑧	ベッセル支点	1	
①	スロットルレバー支点	1	オイル注油
②	油圧Vベルトテンションアーム	1	
③	ダンプレバー支点	1	

() 内はターン&ダンプ仕様

参考：ローラ軸は外側のナットを外し、付属のグリースニップルをスパナで締め付けて各ローラに給油を行ってください。給油後はグリースニップルを外し、元のようにナットを確実に締め付けてください。

保守（お手入れ）

7.6 給水

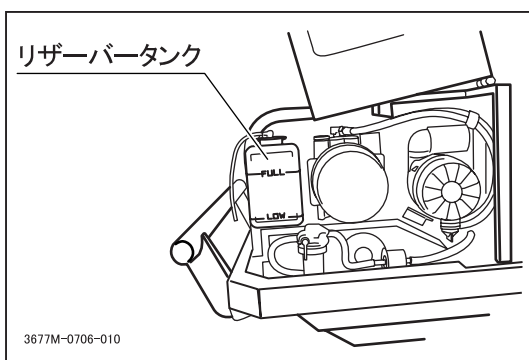
7.6.1 エンジン冷却水

▲ 注 意

- 運転中および停止直後、注入口のキャップを開けると、熱湯が噴出して火傷をすることがありますので、キャップは冷却水が冷めてから（エンジン停止後約 10 分程度）開けてください。
- 不凍液は引火性がありますので火気には十分注意してください。不凍液は毒性がありますので取り扱いには十分注意してください。万一、目に入った場合は水で洗眼し医師の診断を受けてください。

注 記

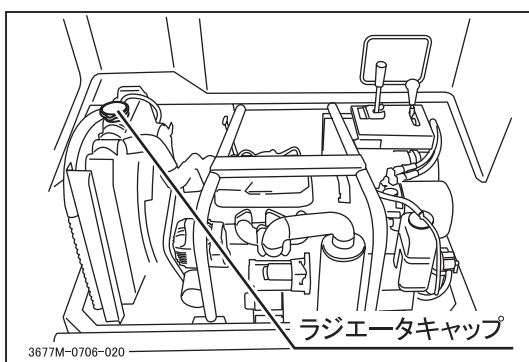
冷却水温ランプが点灯している場合、エンジン冷却水量が不足し、エンジンが十分冷却されていないことを示しますので、必ず点検を行ってください。



（点 検 / 補 給）

1. エンジンカバーを開け、ステーでしっかり固定します。（☞ 15 ページ）
2. エンジンが冷えているとき、リザーバタンク内の冷却水量が「FULL」の位置にあることを確認し、不足している場合は補給します。

リザーバタンク容量：0.7ℓ



3. ラジエータキャップを開けます。
4. エンジン冷却水量を目視点検し、不足している場合は補給します。

冷却水量：1.8ℓ

不凍液の混合について（参考）

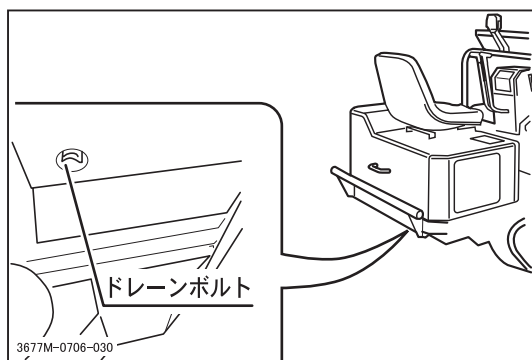
使 用 温 度	混 合 割 合
－ 10℃	30%
－ 15℃	35%
－ 20℃	40%
－ 25℃	45%

※使用温度は最低気温より5℃低い値を示す。

本製品は工場出荷時に不凍液 40% 混合剤の冷却水を充填しています。

冷却水の冷凍を防ぐため、使用する地域の最低気温を元に下表の割合で不凍液を混合してご使用ください。

保守（お手入れ）



（交 換）

1. 冷却水を抜き取る適当な容器を用意します。
2. ラジエータ下部のドレーンボルトを取り外します。
3. 冷却水を抜き取り、ラジエータ内を洗浄します。

参考： ラジエータキャップを取り出すと、冷却水が抜き取りやすくなります。

4. ドレーンボルトを取り付け、冷却水を補給します。

注 記

冷却水は適切な処理をしてください。

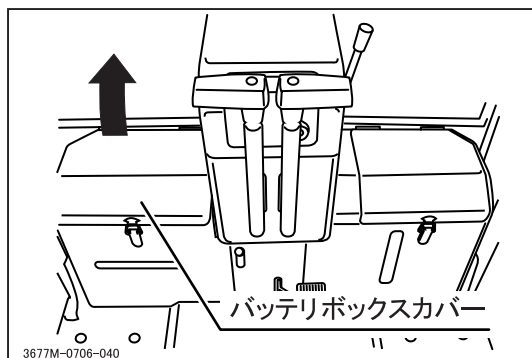
7.6.2 バッテリー液

⚠ 危 険

バッテリー液（希硫酸）から発生するガスは引火性があるため、バッテリーに火気（タバコの火など）を絶対に近づけないでください。爆発するおそれがあります。

⚠ 注 意

- バッテリー液を身体や服に付けないようにしてください。付着したまま放置すると、バッテリー液によって、火傷をするおそれがあります。
- バッテリーの点検および取り外しのときにはエンジンを停止し、メインスイッチを「切」にしてください。



（点 検 / 補 給）

1. バッテリーボックスカバーを開けます。
2. バッテリー液の量を目視点検し、不足している場合はバッテリー液を補給します。

バッテリー液量：基準値（上および下）の間
バッテリー液：蒸留水

保守（お手入れ）

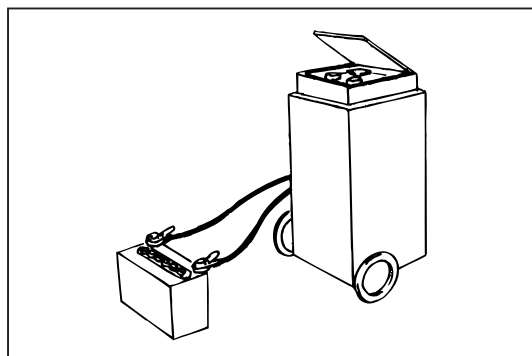
（充 電）

▲ 注 意

- バッテリーは必ず車体から取り外して充電してください。電装品の損傷のほか、配線などを傷めることがあります。
- バッテリーコードを接続するときは、＋・－を間違えないようにしてください。一度でも間違えるとヒューズが飛び、バッテリーが充電できなくなります。
- バッテリーからコードを取り外すときは一側から取り外し、取り付けるときは＋側から取り付けてください。逆にすると、工具がフレームに接触した場合にショートします。
- バッテリーを取り外し、再度取り付けるときにはバッテリーの＋・－コードを元通りに配線し、周りに接触しないように締め付けてください。

注 記

急速充電は、短時間で放電量の幾分かを補うために大電流で充電する方法です。この方法は応急処置として行うものです。作業が終わったらなるべく早く、正しく補充電を行っておかないと、バッテリーの寿命は極端に短くなります。



1. バッテリーを取り外します。
2. 使用する充電機の「取扱説明書」の指示にしたがって、バッテリーの充電を行ってください。

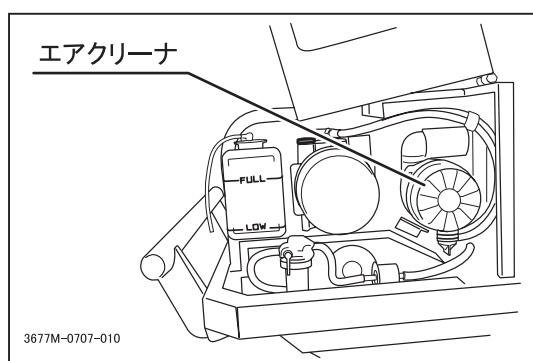
保守（お手入れ）

7.7 清掃・交換

7.7.1 エアクリーナ

注 記

- エアクリーナエレメントの汚れがひどくなると、エンジンの始動不良・出力不足・エンジンの寿命低下を引き起こすため、定期的（100 時間運転毎）に清掃するよう心がけてください。
- エアクリーナエレメントを破ったり、変形させたりしないよう慎重に扱ってください。



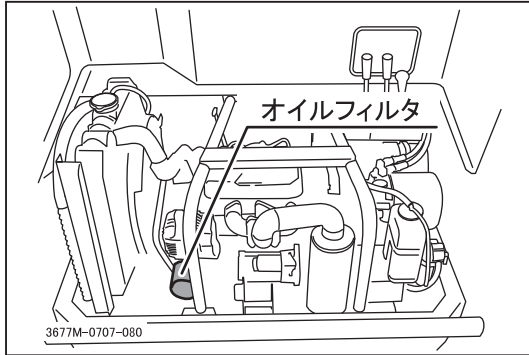
1. エンジンカバーを開け、ステーでしっかり固定します。（☞ 15 ページ）
2. エアクリーナエレメントを取り外します。
3. エアクリーナエレメントを軽くたたきながらゴミを落とします。または、エアクリーナエレメントを回しながら、圧縮空気を内側から吹き付けます。

注 記

- カーボンや油分の多い場合は、洗剤を溶かした水に、エアクリーナエレメントを約 30 分間浸した後に洗浄し、清水でよくすすいでから自然乾燥してください。
- エアクリーナエレメントは1年または 600 時間で、新品と交換してください。
- エアクリーナエレメントを損傷したときは、新品と交換してください。

保守（お手入れ）

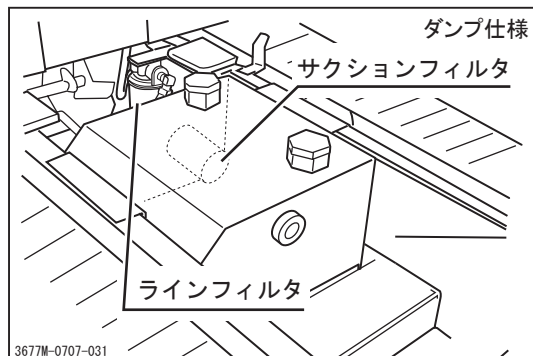
7.7.2 エンジンオイルフィルタ



1. オイルを抜き取る適当な容器を用意します。
2. エンジンオイルを抜きます。（☞ 34 ページ）
3. エンジンカバーを開け、ステーでしっかり固定します。（☞ 15 ページ）
4. オイルフィルタレンチを使用して、オイルフィルタを回し、取り外します。
5. エンジン側のフィルタハウジングベースを清掃します。
6. 新品のオイルフィルタのパッキンにきれいなエンジンオイルを薄く塗布します。
7. 新品のオイルフィルタを手でいっぱい締め付けます。
8. エンジンオイルを注入します。（☞ 34 ページ）
9. エンジン始動後、取付部からオイルの漏れがないか確認します。

保守（お手入れ）

7.7.3 サクションフィルタとラインフィルタ



注 記

作動油を交換した場合には、サクションフィルタとラインフィルタを同時に交換してください。

（交 換）

1. サクションフィルタを取り外します。（ラインフィルタを取り外すときはオイルフィルタレンチを使用します。）

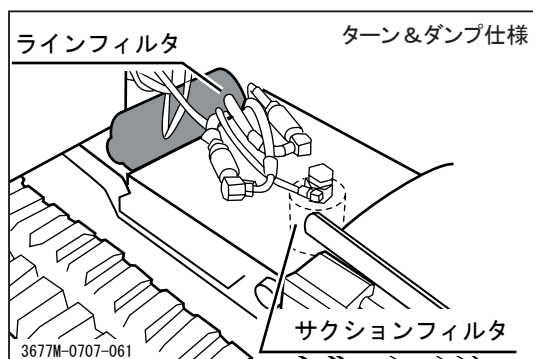
▲ 注 意

オイル高温時には火傷のおそれがあります。

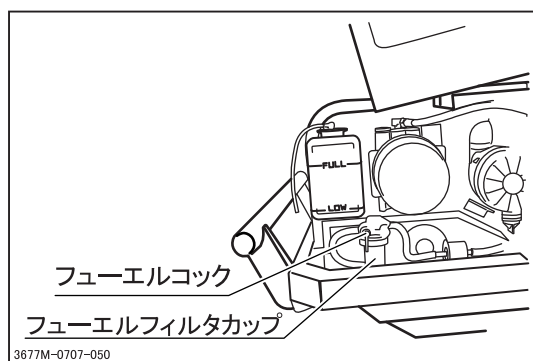
2. 新品のサクションフィルタとラインフィルタを取り付けます。

注 記

取り付け時、ラインフィルタのパッキンにきれいなエンジンオイルを薄く塗布します。



7.7.4 フューエルフィルタ



1. エンジンカバーを開け、ステーでしっかり固定します。（☞ 15 ページ）
2. フューエルコックを「OFF」の位置にします。
3. フューエルフィルタカップを取り外します。
4. フューエルフィルタカップの底にたまっているゴミや水を取り除きます。
5. フューエルフィルタエレメントを下方にゆっくりと引っ張り、取り外します。
6. 新しい軽油で洗淨します。

注 記

フューエルフィルタを損傷した場合は、新品と交換してください。

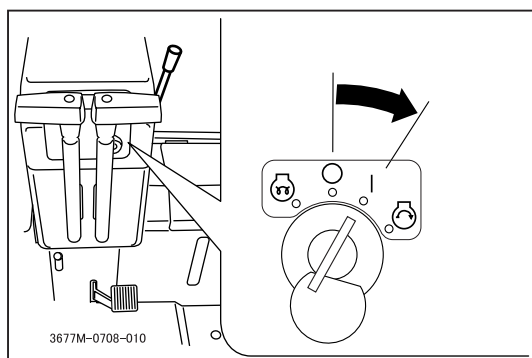
保守（お手入れ）

7.8 調整

7.8.1 燃料系統のエア抜き

注 記

燃料タンク内の燃料がなくなるまで運転を続けると、次回燃料を補給したとき、噴射ポンプに空気が入って燃料を噴射せず、エンジンが始動しなくなるので、下記の要領でエア抜きを行ってください。フューエルフィルタおよび燃料パイプ類を交換した場合も同様に、エア抜きを行ってください。

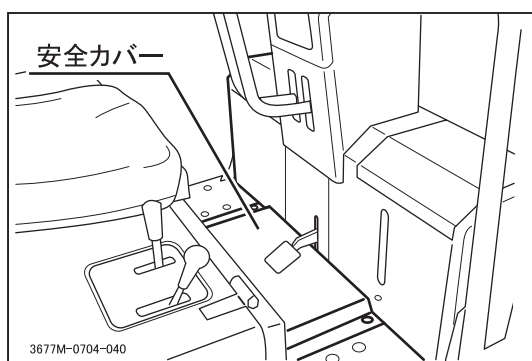


1. 燃料タンクに燃料を補給します。
2. エンジンキーを「 | (ON) 」にし、燃料ポンプを5秒程度作動させます。(自動エア抜きシステム)

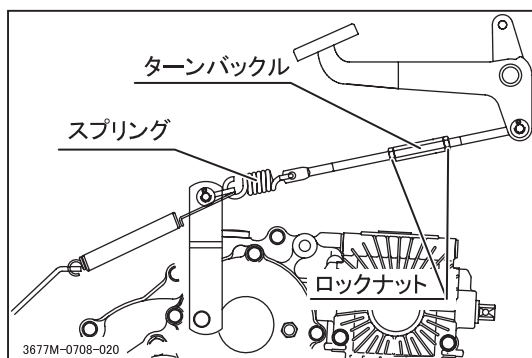
7.8.2 駐車ブレーキ

注 記

- 最も重要な調整に駐車ブレーキ調整があります。少しでも甘くなった場合は直ちに下記の調整を行い、常に安全に心掛けてください。
- 駐車ブレーキは操向レバーを中立にした状態で使用してください。



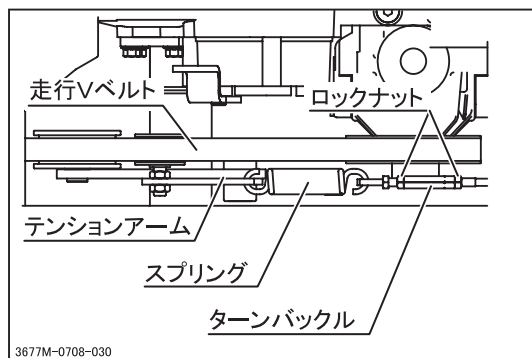
1. 安全カバーを取り外します。
2. 駐車ブレーキペダルを確実にロックします。



3. ロックナットを緩め、ターンバックルを回しスプリングフック内寸が67～68mmになるように調整します。
4. 調整後、ロックナットを確実に締め付けてください。

保守（お手入れ）

7.8.3 走行Vベルト



（点 検）

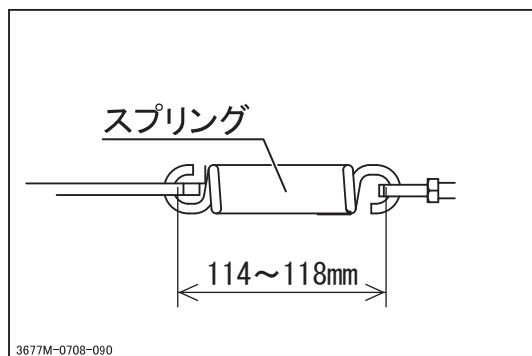
1. クラッチレバーを「（入）」の状態にします。
2. 安全カバーを取り外します。（ 44 ページ）
3. 走行Vベルトに損傷がないか目視点検します。損傷がある場合は、交換します。

（Vベルトの滑り）

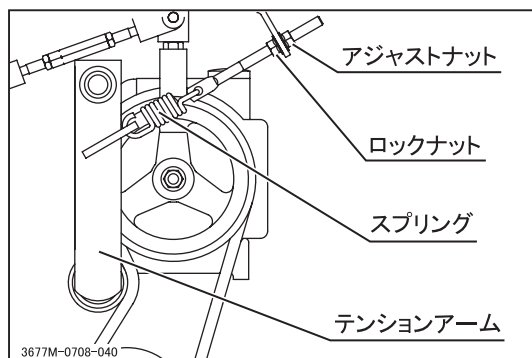
ロックナットを緩めた後、ターンバックルを回し、スプリングフック内寸が 114 ～ 118mm になるように調整します。

（交 換）

販売店へ依頼してください。



7.8.4 油圧Vベルト



（点 検）

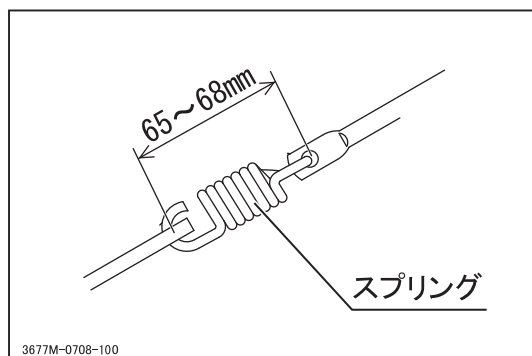
1. エンジンカバーを開け、ステーで固定します。（ 15 ページ）
2. 油圧Vベルトに損傷がないか目視点検します。損傷がある場合は、交換します。

（Vベルトの滑り）

ロックナットを緩めた後、アジャストナットを回し、スプリングフック内寸が 65 ～ 68mm になるように調整します。

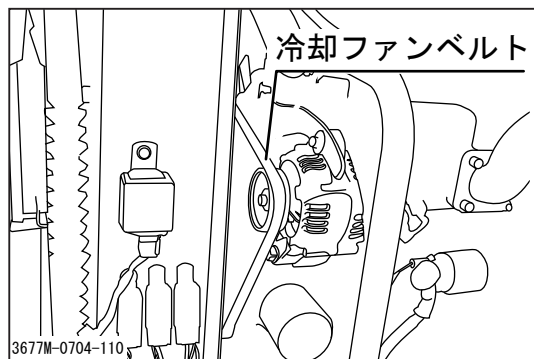
（交 換）

販売店へ依頼してください。



保守（お手入れ）

7.8.5 冷却ファンベルトの張り



注 記

冷却ファンベルトの張りが弱いと、ベルトがスリップし、エンジンの冷却能力が低下するだけでなく、寿命を短くします。

▲ 注 意

エンジンを停止した状態で点検してください。

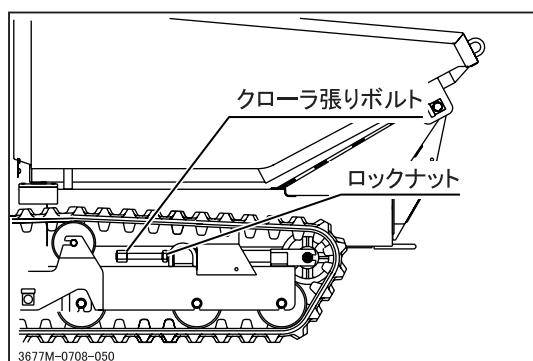
（点 検 / 調 整）

1. エンジンカバーを開けます。
2. 冷却ファンベルトの中央を指で抑え、ベルトの張りを点検します。

たわみ量：約 5 kg の力で、約 7 mm 程度

3. たわみ量が上記の基準値内でない場合は、取付ボルトを緩め、オルタネータを動かし、ベルトの張りを調整します。

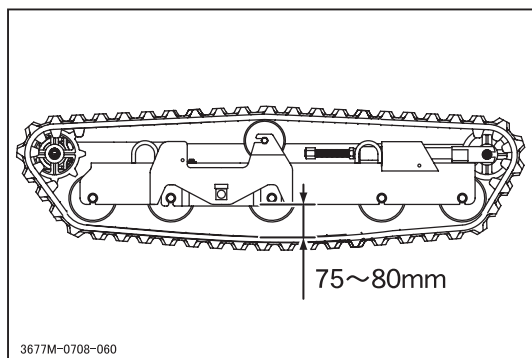
7.8.6 クローラの張り



注 記

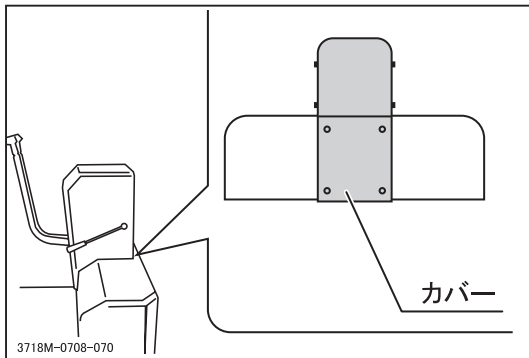
クローラは新品時には初期伸びが、走行距離が多くなるとスプロケットとのなじみによる緩みが生じるため調整が必要です。クローラの張りが正常でないと、脱輪したり、クローラの寿命を著しく縮める原因になります。

1. 車体を水平な場所に置きます。
2. ジャッキアップ等して片側のクローラを地面と平行に浮かせます。
3. クローラ張りボルトのロックナットを緩めます。
4. クローラ張りボルトを回して、クローラとフレームの隙間を 75 ～ 80mm に調整します。



保守（お手入れ）

7.8.7 操向レバー



注 記

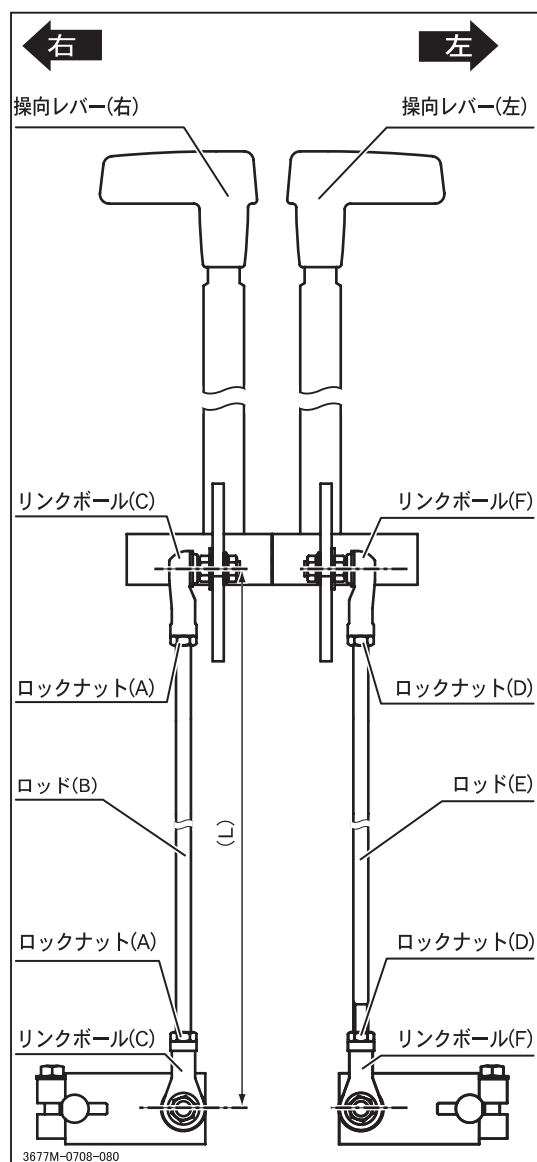
工場出荷時に適正值に調整してありますので、通常は調整不要です。ミッション、操向レバーおよびリンク類を交換したときのみ調整が必要です。

1. エンジンを始動し、スロットルレバーを「 (高速)」にし、エンジン回転数を上げておきます。
2. 地面が平坦な場所で操向レバーを倒し、走行します。操向レバーから手を離した状態で左右のクローラが前進又は後進する場合は調整する必要があります。

（調整のまえに）

1. 荷台を上昇させ、ダンプレバーをロックプレートにてロックします。
2. 荷台落下防止棒にて荷台を確実に支えます。
( 25 ページ)
3. カバーを取り外します。

保守（お手入れ）



（右側のクローラが動く場合）

1. ロックナット（A）2個を緩めます。
2. ロッド（B）をゆっくり回し、クローラが動かなくなるように調整します。
 - ・ クローラが前進方向へ動く場合は2つのリンクボール（C）の距離（L）が短くなる方向へロッドを調整します。
 - ・ クローラが後進方向へ動く場合は2つのリンクボール（C）の距離（L）が長くなる方向へロッドを調整します。
3. ロックナット（A）2個を締め付けます。

（左側のクローラが動く場合）

1. リンクボールロックナット（D）2個を緩めます。
2. ロッド（E）をゆっくり回し、クローラが動かなくなるように調整します。
3. ロックナット（D）2個を締め付けます。

保守（お手入れ）

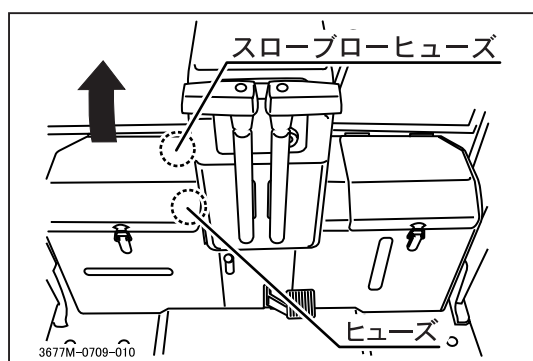
7.9 電装品

7.9.1 ヒューズ

（点 検）

注 記

配線の回路に異常を生じたとき、事故を未然に防止するため回路にヒューズを設けています。作業中、電気系統に異常を確認したときは、ヒューズの状態をチェックしてください。



バッテリーボックスカバーを開け、ヒューズが溶断していないか点検します。

（スローブローヒューズ）

- ・ 30 A：メイン
- ・ 40 A：充電

（ヒューズ）

- ・ 5 A：アワメータ・警報モニタ・フューエルポンプ
- ・ 5 A：ホーン

（交 換）

▲ 注 意

ヒューズが溶断しているときは、原因を調査してから指定容量のヒューズと交換してください。

指定容量以外のヒューズと交換して、電装品が故障した場合は、保証の対象外となります。

保守（お手入れ）

7.10 使用後のお手入れ

（通常使用後のお手入れ）

- ・ 使用後は車体に付着した泥や異物をきれいに取り除いてください。エンジンや操作盤の水洗いは、水の浸入や錆び付きの原因になるため避けてください。
- ・ 屋外に放置する場合は、エンジンが十分冷えてから防水カバー等をかけて保管してください。

（寒冷期使用後のお手入れ）

- ・ 使用後は必ず車体に付着した泥や異物をきれいに取り除いてください。付着物は、凍結して故障の原因となります。
- ・ コンクリートか固い乾燥した地面または角材の上に駐車させてください。
- ・ 屋外に放置する場合は、エンジンが十分冷えてから防水カバーなどをかけて保管してください。

注 記

凍結して運転不能となった場合は無理に動かそうとせずに凍結個所を水・お湯等で溶かすか、凍結が溶けるまで待ってください。無理に動かした場合の故障については責任を負いかねますので特にご注意ください。

格納（長期保管）

8. 格納（長期保管）

長期保管する場合は、次の使用時に備えて適切な処置をしておく必要がありますので、使用後のお手入れ（☞ 50 ページ）を行った後、以下の指示に従ってください。

⚠ 危 険

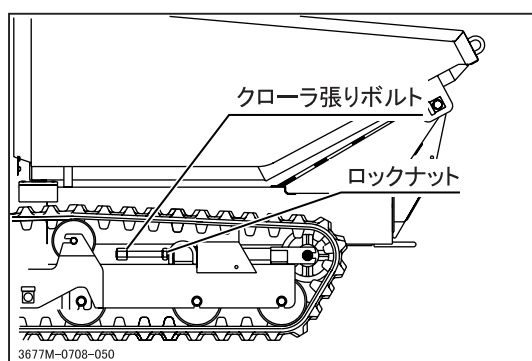
火気のある場所および高温な場所に本製品およびバッテリー、燃料等を格納しないでください。火災の原因となり危険です。

注 記

湿気やほこりの多い場所での本製品の格納は避け、格納時にはエンジンが十分冷えてから、カバー等を本製品にかけてください。

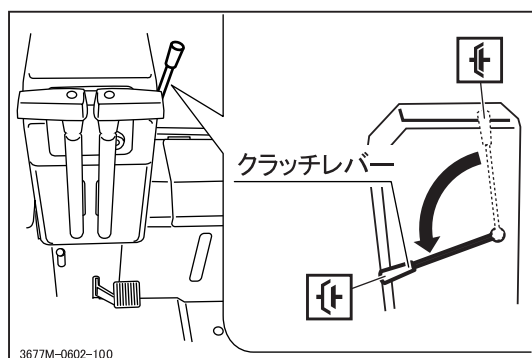
8.1 車両

8.1.1 クローラ



1. クローラのロックナットを緩め、張りボルトを緩めます。（☞ 46 ページ）
2. 外面を油のしみた布で清掃し、回転摺動部は給油します。
3. クローラの下に板等を敷きます。
4. エンジンキーを抜きます。

8.1.2 クラッチ



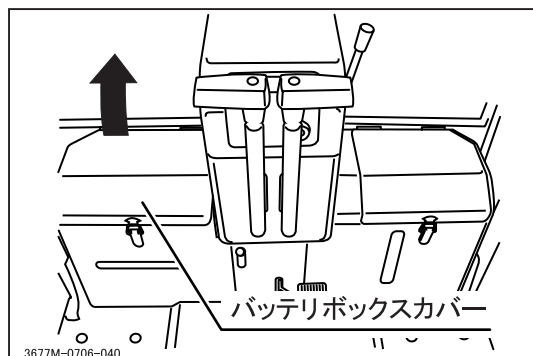
1. クラッチレバーを「（切）」の位置にします。

格納（長期保管）

8.2 バッテリ

▲ 注 意

バッテリーターミナルの取り外しは、必ず（－）端子側から行い、取り付けは逆に（＋）端子側から行ってください。



1. 本体（車両）からバッテリーを取り外します。
2. バッテリー液の量を確認し、必要な場合は補給します。
3. 低温で乾燥した場所に保管します。

参考：

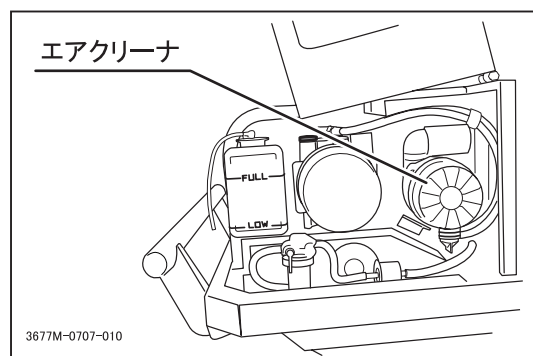
バッテリーは使用しなくとも約6ヶ月は蓄電していますが、放電してしまわないうちに充電すると、バッテリーを長持ちさせることができます。

8.3 エンジン

注 記

エンジンの長期保管の詳細については、付属の「エンジン取扱説明書」を参照してください。

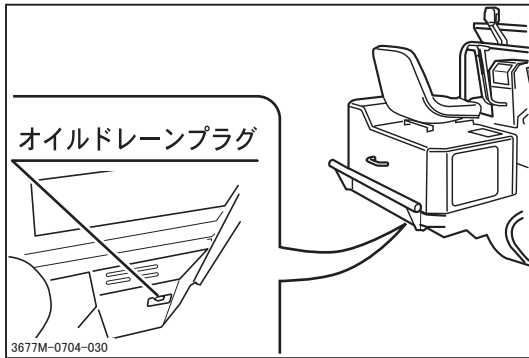
8.3.1 エアクリーナエレメントの清掃



エアクリーナエレメントを清掃します。
(☞ 41 ページ)

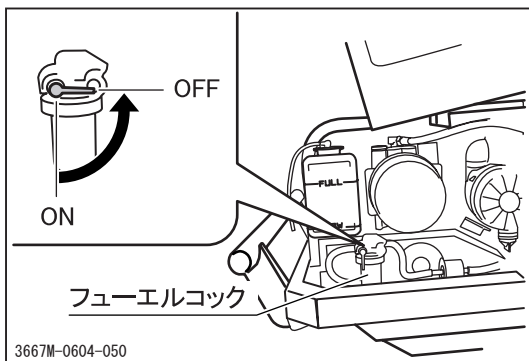
格納（長期保管）

8.3.2 エンジンオイルの交換



- エンジンオイルを抜き取り、新しいエンジンオイルと交換します。
(☞ 34 ページ)

8.3.3 フューエルコック



- フューエルコックを「OFF」の位置にして燃料の供給を停止します。

不具合発生時の処置

9. 不具合発生時の処置

- ・ 不具合と考えられる現象が起きた場合は、本機の使用を停止し、下記の「不具合診断表」を参照して適切な処置をしてください。「不具合診断表」に掲載されていない不具合が発生した場合や適切な処置を行っても不具合が解消されない場合は、販売店または当社センターまで連絡してください。
- ・ 処置については、専門的な整備知識を必要とするものもありますので、整備が難しいものについては、販売店または当社センターに依頼してください。

不具合診断表

発生箇所	不 具 合 現 象	考 え ら れ る 原 因	処 置
エ ン ジ ン 関 連	エンジンがかからない またはかかりにくい (始動困難)	・ 駐車ブレーキペダルを踏んでいない (安全装置が作動している) ・ バッテリーの過放電 ・ バッテリーケーブルの外れ ・ ヒューズ切れ ・ 電気配線 (コネクタ) の接触不良または断線 ・ 燃料不足 ・ 燃料への空気の混入 ・ 燃料の吸い込みすぎ ・ エンジンオイルの不足または品質不良 (オイル粘度が高い) ・ バッテリーの容量不足 (セルモータの起動不良) ・ スタータスイッチ、モータ、リレーの作動不良 ・ 燃料系統内に不純物が浸入している	→ 駐車ブレーキペダルを踏む → バッテリーを充電する (☞ 40 ページ) → バッテリーを交換する → 接続する → 交換する → 修理する (販売店へ依頼してください) → 補給する (☞ 14 ページ) → エア抜きをする (☞ 44 ページ) → 時間をおいて始動する → 補給または交換する (☞ 34 ページ) → バッテリー液を補充する → バッテリーを充電する (☞ 40 ページ) → 販売店へお問い合わせください → フューエルコックを清掃する
	すぐにエンストする	・ 燃料不足 ・ 燃料ホース内に空気混入 ・ 暖機運転の不足	→ 補給する (☞ 14 ページ) → エア抜きをする (☞ 44 ページ) → 十分暖機する
	エンジンが突然停止した	・ 燃料切れ ・ エンジンオイル不足またはオイル劣化による焼き付き	→ 補給する (☞ 14 ページ) → 点検および補給する (☞ 34 ページ)
	エンジンが停止しない	・ 電気系統のトラブル	→ 燃料コックを閉じて、エンジンを停止します 販売店へ修理を依頼してください
	アイドリング不良 (エンジン回転にムラがある。)	・ 吸入空気量の不足 (エアクリーナの目詰まり) ・ その他	→ 清掃または交換する (☞ 41 ページ) → 販売店へお問い合わせください

不具合発生時の処置

発生箇所	不 具 合 現 象	考 え ら れ る 原 因	処 置
エ ン ジ ン 関 連	出力または加速不良	・ 燃料不良 ・ エンジンオイルの粘度不適正 ・ スロットルの調整不良 ・ 吸入空気量の不足 (エアクリーナが目詰まり) ・ 過積載 ・ その他	→ 燃料を交換する → 適正なオイルと交換する → 販売店へお問い合わせください → 清掃または交換する (☞ 41 ページ) → 積み荷を減らす → 販売店へお問い合わせください
	エンジンまたはエンジン付近から異音または振動がする	・ エンジン取り付けボルト緩み ・ その他	→ 増し締めする → 販売店へお問い合わせください
	エンジンオイルの消費が早い	・ エンジンオイルの漏れ ・ シリンダピストンリングの磨耗	→ 点検および修理する → 点検および修理する (販売店へ依頼してください)
	エンジンのオーバーヒート	・ エンジンオイルの不足 ・ エンジン冷却水の不足 ・ エンジン冷却水の漏れ ・ ラジエータの目詰まり	→ 補給する (☞ 34 ページ) → 補給する (☞ 38 ページ) → 点検および修理する (販売店へお問い合わせください) → 清掃する
	燃料の消費が早い	・ 燃料系統からの燃料漏れ ・ エアクリーナが目詰まり ・ その他	→ 点検および修理する (販売店へ依頼してください) → 清掃または交換する (☞ 41 ページ) → 販売店へお問い合わせください
	黒煙が大量に出る (排気状態の不良)	・ 圧縮不良 ・ 燃料不良 ・ エアクリーナが目詰まり	→ 点検および修理する (販売店へ依頼してください) → 燃料を交換する → 清掃または交換する (☞ 41 ページ)
	白煙または青煙が出る (排気状態の不良)	・ エンジンオイルが入り過ぎて いる ・ オイル粘度が低すぎる ・ シリンダ、ピストンリングの磨耗	→ 点検後、オイル量を調整する (☞ 34 ページ) → 適正なオイルと交換する → 点検および修理する (販売店へ依頼してください)
	スロットルレバーが引っかかる	・ スロットルロッドおよびワイヤの 変形、錆び付き	→ 交換する (販売店へ依頼してください)

不具合発生時の処置

発生箇所	不 具 合 現 象	考 え ら れ る 原 因	処 置
動力伝達装置関連	操向レバーを前進または後進の位置に入れても車体が動かない ま た は 旋 回 不 良	・ 駐車ブレーキが効いている ・ 油圧系統の不具合 ・ 過積載 ・ 作動油の不足または劣化 ・ オイルクーラの目詰まり ・ 油圧回路への異物の侵入 ・ フィルタエレメントの目詰まり ・ 油圧系統からのオイル漏れ ・ その他	→ 駐車ブレーキの解除 → 「油圧装置関連」の項を参照 (☞ 56 ページ) → 積み荷を減らす → 給油または交換する (☞ 36 ページ) → 清掃する → 除去する → 交換する (☞ 43 ページ) → 点検および修理する → 販売店へお問い合わせください
ブレーキ	効 き が 悪 い	・ 調整ナットの緩み ・ ブレーキライニングの磨耗 ・ ブレーキドラム内に水が侵入 ・ 過積載	→ 調整する (☞ 44 ページ) → ライニングを交換する (販売店へ依頼してください) → 何回かブレーキをかけて中の水を乾かす → 積み荷を減らす
クローラ	クローラが円滑に回転しない	・ 調整不良	→ 調整する (☞ 46 ページ)
安全装置関連	エンジン始動後もウォーニングランプが点灯する (1) チャージランプ (2) オイルランプ	・ カプラ・配線の外れ ・ エンジンオイルの不足または潤滑系統の異常	→ 接続する → 補給する (☞ 34 ページ)
安全装置	ホーンが作動しない	・ ホーンの配線の端子の外れまたは断線 ・ ヒューズ切れ	→ 接続するまたは修理する → 交換する (☞ 49 ページ)
ローラ	不連続音がある	—	→ 不良部品を交換する (販売店へ依頼してください)
ローラ	異常発熱がある	—	→ 不良部品を交換する (販売店へ依頼してください)
アイドラ アッパ ーローラ スイング ローラ 取付ピン	The diagram illustrates the internal components of a crawler track. It shows a cross-section of the track with various rollers and sprockets. Labels with leader lines point to specific parts: 'アイドラ' (Idler) at the front, 'アッパローラ' (Upper Sprocket) at the top, 'ローラ' (Roller) at the bottom, and 'スイングローラ取付ピン' (Swing Roller Pin) for the pins connecting the rollers.		
ダンブ装置	ダンブ装置が作動しない	・ 油圧系統からのオイル漏れ ・ コントロールバルブの異物の目詰まり	→ 点検および修理 → 点検および修理
回転装置	回転装置が作動しない	・ 油圧系統からのオイル漏れ ・ コントロールバルブの異物の目詰まり	→ 点検および修理 → 点検および修理

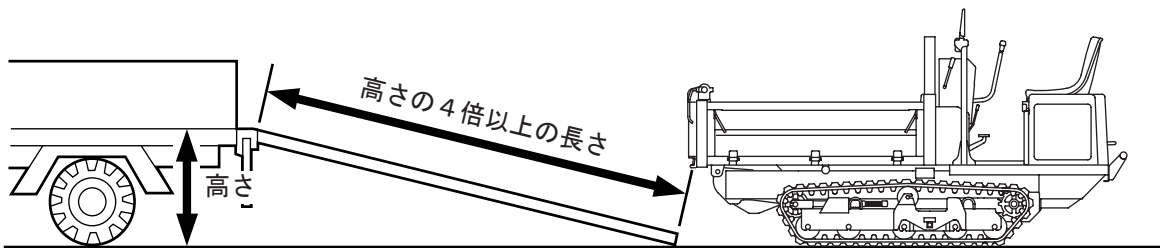
本製品の移送

10. 本製品の移送

本製品の移送のために自動車（トラック）へ積み降ろしする際は、下記の手順および注意事項を厳守してください。

10.1 自動車（トラック）への積み降ろし

1. アユミ板は、十分な強度（機械重量および運転者の体重の総和に十分耐え得ること）、幅（クローラの1.2倍以上）、長さ（高さの4倍以上）のあるすべり止め付きのものを使用し、本製品重量でアユミ板が傾いたりしない場所を選んでください。
2. アユミ板のフックは、荷台に段差のないように、また、ずれないように確実にかけてください。



3677M-1001-021

⚠ 危険

- 作業中は本製品およびアユミ板の周辺には、人を近づけないようにしてください
- アユミ板上での方向転換は行わないでください。転落の危険があります。
- アユミ板を登るときは前進、降りるときは後進にてゆっくりと走行してください。

⚠ 注意

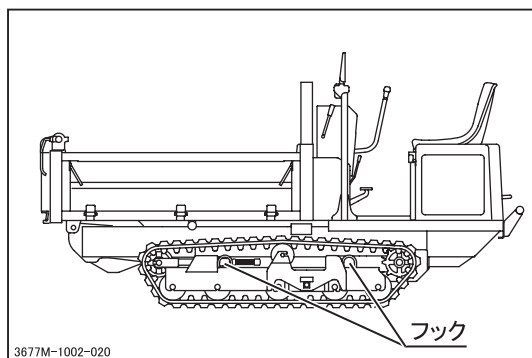
アユミ板と自動車（トラック）の荷台の境目で本製品の重心が急に移動することがあるので注意してください。

本製品の移送

10.2 クレーン等による吊り上げ要領

▲ 警 告

吊り上げ作業は必ず空車状態で行ってください。



1. フレームの前後左右についている吊り上げ用フック（4ヶ所）にワイヤーロープを掛け、機体の中央（左右方向）で吊り上げてください。
2. 玉掛用具（ワイヤーロープ、チェーン等）は十分な強度があるものを使用し、同じ長さのものを使用してください。